
インストールおよびアップ グレード Klocwork

Klocwork Insight 9.6 SR3

Klocwork Inspect 2.6 SR3

版1.3



中身

物品

インストールの前に	1
Klocwork パッケージとコンポーネントについて	1
システム要件	2
前バージョンからのアップグレード	13
前バージョンからのアップグレード	13
Windows への Klocwork サーバー パッケージのインストール -- アップグレードのみ	22
Unix への Klocwork サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ	24
Mac への Klocwork サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ	27
サーバーパッケージのインストール	29
Klocwork Insight のインストール	29
Windows への Klocwork サーバー パッケージのインストール	30
Windows への自動インストール	33
Unix への Klocwork サーバーパッケージのインストール	35
Mac への Klocwork サーバーパッケージのインストール	39
kwupdate	41
ユーザーパッケージのインストール	43
Windows への Klocwork ユーザーパッケージのインストール	43
Unix への Klocwork ユーザーパッケージのインストール	44
Mac への Klocwork ユーザーパッケージのインストール	47
Eclipse 更新サイトからの Klocwork プラグインのインストール	48
新規またはアップグレード版 IDE 向けカスタムインストールの実行	49
分散解析パッケージのインストール	51
分散解析パッケージのインストール	51
Klocwork サーバーの設定と起動	54
Klocwork サーバー設定の表示と更新	54
Klocwork サーバーの起動	57
Klocwork サーバーの停止	59
kwservice	60
インストールのテスト	65

インストールのテスト	65
チームに伝達しなければならないこと	66
トラブルシューティング	67
Windows にインストールした Klocwork Insight の修復	67
パッチをインストールした後で Visual Studio でパッケージロードエラーが発生する	68
インストール中のセットアップ初期化ファイルの読み取りエラー	68
Klocwork は非ASCII エンコードをサポートしている	68
Windows のインストール後に Klocwork サーバーを起動できない	69
Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA をお使いになる前に	69
アンインストール	71
Klocwork Insight のアンインストール	71
Windows のインストール後に Klocwork サーバーを起動できない	75
参照	
記事の出典および著者	76
画像の出典およびライセンス、著者	77
記事のライセンス	
ライセンス	78

インストールの前に

Klocwork

パッケージとコンポーネントについて

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>

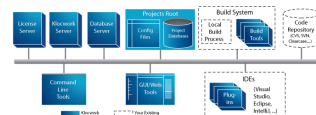
Klocwork Insight

のインストールパッケージおよびコンポーネントでは、特定のマシンに必要なコンポーネントのみをインストールできます。

主なインストールパッケージは、次のとおりです。

- サーバー (kw-server-installer)
- ユーザー (kw-user-installer)

注意:分散解析パッケージについては、分散解析パッケージのインストールで個別に 明します。



サーバーパッケージのコンポーネント

コンポーネント	詳細
Database サーバー	MySQL データベースサーバー (コマンドライン名: database)。Klocwork Review と Klocwork Architect のデータが格納されています。別の MySQL インストールを使用することもできます。 デフォルトのホスト:localhost デフォルトのポート:3306
ライセンスサーバー	FLEXlm ライセンスマネージャー (コマンドライン名: license)。組織の FLEXlm サーバーを使用することもできます。 デフォルトのホスト:localhost デフォルトのポート:27000 と 33133
Klocwork サーバー	Apache Tomcat Web サーバー (コマンドライン名: klocwork)。Klocwork Review、Klocwork Inspect、および Klocwork ドキュメンテーションにアクセスできるようにします。Klocwork クライアントは、プロジェクト情報を取得するために Klocwork サーバーに接続します。 注意:Klocwork では、独自の Apache Tomcat サーバーを使用することはサポートしていません。Klocwork に同梱してある Web サーバーを使用する必要があります。 デフォルトのホスト:localhost デフォルトのポート:8080 と 8081
Klocwork ビルドツール	統合ビルド解析ツール: <ul style="list-style-type: none"> • Klocwork のプロジェクト、解析、およびアクセス制御の管理のためのツール (kwadmin および kwbuildproject) • build specification (ビルドスペック) の生成のためのツール (kwinject、kwwrap、kwant、kwcsprojparser) • Klocwork 統合ビルド解析の実行のためのツール (解析エンジン) • Klocwork のプロジェクトおよびアクセス制御の管理のためのツール • サンプルプロジェクト
Klocwork projects_root ディレクトリ	MySQL および Lucene データベースに保存されるプロジェクトデータベーステーブルなど、Klocwork サーバーおよびアプリケーションのデータの場所。デフォルトの場所およびこのデータディレクトリ固有の考慮事項については、プロジェクトルートディレクトリを参照してください。 注意:projects_root ディレクトリは、インストールウィザードで表示されるコンポーネントのリストにはありませんが、その場所をウィザードで選 できます。

ユーザーパッケージのコンポーネント

コンポーネント	詳細
Klocwork Architect (GUI/Web ツールの一部)	組織のソフトウェアディレクトリの設計の正確なグラフィック表示を、既存のソースコード (C/C++ および Java) から直接抽出します。
Klocwork コマンドライン	C/C++ および Java 向けの Klocwork デベロッパーツールのコマンドラインバージョン。ソフトウェアデベロッパーは、ソース制御にコミットする前にソースコードの品質を確認できます。kwcheckを実行するための GUI 代替である Klocwork Desktop も含まれます。 注意:このコンポーネントには、カスタムチェッカーを書き込むための Klocwork Extensibility API も含まれています。
IDE 統合 (プラグイン)	サポートされている IDE のための、C/C++、C#、および Java 向けの Klocwork デベロッパーツールプラグイン。
Checker Studio	カスタム C/C++ または Java KAST チェッカーの作成用に 象のノードを識別するために、コードの抽象構文ツリー (AST) 構造を参照できます。

注意:特定の IDE プラグインは、関連 IDE がマシンにインストールされる場合、インストール中にのみ表示されます。たとえば、Microsoft Visual Studio 2005 がインストールされていない場合、"Visual Studio 2005 での C/C++ 向け Klocwork" は表示されません。

システム要件

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>

サポートされるプラットフォーム

Klocwork サーバーおよびユーザーパッケージは、次のオペレーティングシステムでサポートされます (注記がある場合を除きます)。これは、これらの特定のハードウェア上のオペレーティングシステムで Klocwork の完全なテストが実施されており、Klocwork サポートポリシーで指定されているテクニカルサポートを提供することを意味します。

注意: SELinux (Security-Enhanced Linux) を有効にして Klocwork ツールを使用することはできません。

プロセッサ	オペレーティングシステム
Sun SPARC	Sun Solaris 9 および 10
Intel および AMD 32 ビットおよび 64 ビット	Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、6.x SUSE Enterprise 10 (32 ビットのみ)、11 また、Klocwork では、glibc 2.3 以降を実行する Fedora、Open Suse、Ubuntu、CentOS、Debian (使用中のバージョンを 索するには <code>getconf GNU_LIBC_VERSION</code> を使用すること) など、最新の Linux 配布がすべてサポートされています。 使用中の配布に関する質問については、カスタマーサポートまでお問い合わせください。
	Windows 7 Windows Server 2008 Windows Server 2003 Windows XP Professional Windows Vista
	Mac OS X Snow Leopard (10.6) Mac OS X Lion (10.7)
IBM Power5 64 ビット	IBM AIX 5.3, TL 7 (サーバーパッケージのみ)

オペレーティングシステムのパッチおよびパッケージ

特定のオペレーティングシステムで **Klocwork** 製品 (サーバーまたはユーザーインストール) を実行するには、次のパッチまたはパッケージが必要です。

これらは、お使いのオペレーティングシステム用の定期的なメンテナンスパッチに追加されるものです。

オペレーティングシステム	必要なパッチまたはパッケージ
Solaris 9	<p>GTK</p> <p>注意: ユーザーパッケージの Klocwork Desktop コマンドラインの一部である Klocwork Desktop の実行に必要なバージョンは、GTK 2.2.1 以降です。</p> <p>GTK をインストールするには、次のステップを実行します。</p> <p>スーパーユーザーに切り替えます。</p> <pre>\$ su -</pre> <p>pkg-get ツールがインストールされていることを確認します。</p> <p>カタログのローカルコピーを更新します (オプション)。</p> <pre># pkg-get -U</pre> <p>GTK およびその付属を自動的にダウンロードしてインストールします。</p> <pre># pkg-get -i gtk</pre> <p>普通のユーザーにします。</p> <pre># exit</pre> <p>注意: pkg-get によりすべてのソフトウェアが /opt/csw にインストールされます。 GTK を実行する前に、LD_LIBRARY_PATH 環境 数を /opt/csw/lib にエクスポートします。</p>
Solaris 9 または 10	<p>Java 1.6 に必要なパッチ。 Klocwork では、Java 1.6 をインストールして使用します。 Java の要件は、Sun のリリースノートに記載されています。</p> <p>[1]</p> <p>このページには、推 パッチおよび必要なパッチをダウンロードするためのリンクも含まれます。</p> <p>zlib パッケージ (Klocwork Architect または Klocwork デベロッパーツールのみをインストールする場合は不要)。</p> <p>zlib パッケージがインストールされていることを確認します。 zlib パッケージがインストールされていることを確認するには、以下を実行します。</p> <pre>\$ pkginfo grep zlib</pre> <p>または、/usr/lib か /usr/local/lib にある libz.so という名前のファイルを探します。</p> <p>zlib パッケージがインストールされている場合、SUNWzlib または SMCzlib の各パッケージあるいはその両方が表示されます。</p>

Linux x86、64 ビット	<p>32 ビット互換ライブラリのインストールが必要です。 Klocwork Insight は、64 ビットのプラットフォームで 32 ビットエミュレーションモードにより動作します。このため、Klocwork Insight をLinux 64 ビットプラットフォームで使用するには、32 ビットライブラリがインストールされていることを確認する必要があります。 32 ビットライブラリの確認およびインストールの方法は、Linux の配布方法によって異なります。たとえば Ubuntu の場合、32 ビット互換ライブラリをインストールするには、次のコマンドを実行します。</p> <pre>\$ sudo apt-get install ia32-libs</pre> <p>32 ビットバージョンの libncursesw ライブラリのインストールが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Fedora Core および Redhat Enterprise Linux の場合、以下のコマンドを実行します。 <pre>\$ sudo yum install ncurses-libs.i686 (or your distribution's equivalent)</pre> <p>このライブラリはオプションで、MySQL コマンドラインツールを実行する場合にのみ必要です。</p> <pre>\$ sudo yum install glibc.i686</pre> <pre>\$ sudo yum install libgcc.i686</pre> • Ubuntu (v8.04 を除く) の場合、次のコマンドを実行します。 <pre>\$ sudo apt-get install lib32ncursesw5</pre> • Ubuntu 8.04 の場合、次のようになります。 <p>[2] から .deb ファイルをダウンロードします。</p> <p>次のコマンドを実行します。</p> <pre>\$ sudo dpkg --install lib32ncursesw5_5.7+20090207-1ubuntu1_amd64.deb</pre>
X11 バージョンの X Window をデフォルトでインストールしない Linux 配布	xorg-XFree86-deprecated-libs
Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4	libpng10-1.0.13-8.i386.rpm
Ubuntu 6.06	libxp-dev

Flexera FLEXnet ID ドングルをサポートするオペレーティングシステム

FLEXnet

ID

ドングルは、「ドングル」とも呼ばれるハードウェアキーで、物理的に取り付けられているマシンへのソフトウェアア

FLEXnet ID ドングルは、次のような場合に使用できます。

- MAC アドレス、IP アドレスなど、システム情報を解除できない
- 複数のサイト間でライセンスサーバーを共有できない

FLEXnet ID ドングルの詳細については、Flexera の Web サイトを参照してください。

Flexera FLEXnet ID ドングルを使用するには、適切な FLEXnet ドライバーを備えた次のオペレーティングシステムのいずれかを、FLEXnet 11.10.1.0 を使用する HOSTID_FLEXid9 で使用します。お使いのオペレーティングシステムに適したドライバーは、Klocwork カスタマーサポートで取得できます。

オペレーティングシステム	FLEXnet ドライバーインストーラ
<ul style="list-style-type: none"> Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、6.x 	aksusbd-redhat-1.8.1-3.i386.rpm
<ul style="list-style-type: none"> Windows 2000 Professional Windows Server 2003 Windows XP Professional 	FLEXidInstaller.exe、FLEXid.exe、または FLEXidsilent.exe
<ul style="list-style-type: none"> Windows Vista (32 ビットおよび 64 ビット) 	FLEXid_Dongle_Driver_Installer.exe (FLEXid9 ドライバーを選)

注意:

- Flexera FLEXnet ID ドングルは、root/Administrator 限でインストールします。Unix の場合は、su/sudo を使用します。Windows の場合は、Administrator グループを使用します。
- Flexera FLEXnet ID ドングルを Windows にインストールした後は、Klocwork サーバーを再起動します。
- Linux Red Hat Package Manager (RPM) インストーラは、checkpc に関するエラーメッセージを表示します。このエラーメッセージは無視してください。

ディスク領域要件

インストールのためのディスク領域要件

完全インストールの場合、インストール用に **400 ～ 450 MB** が必要です。
インストール中に追加のディスク領域が一時的に必要となります。

データ保存のためのディスク領域要件

Klocwork

Insight

のデータには、ソースファイル、構成ファイル、オブジェクトファイル、テーブル、およびデータベースが含まれます
単一の統合ビルド解析に必要なディスク領域の合計は、このデータの合計となります。

Klocwork

の 分解析を使用する場合、オブジェクトファイルのサイズおよびテーブルのサイズは、1 つのプロジェクトにつき 1 回分です。

サンプルプロジェクトによって異なるサイズの例

プロジェクト	言語	コードの行	オブジェクトファイルのサイズ (MB)	テーブルサイズ (MB)	データベースサイズ (MB)	合計サイズ (MB)
Boost	C/C++	6,300	393	17	84	494
Firefox	C/C++	1,200,000	2,800	606	702	4,108
X.org	C	1,500,000	2,600	608	720	3,928
Linux	C	2,300,000	7,200	1,100	1,200	9,500
Common C++	C/C++	20,000	168	23	45	236
Python	C	192,000	114	52	84	250
MySQL	C/C++	350,000	781	133	167	1,081

プロセッサおよび RAM の要件

サーバーおよび完全インストール

- プロセッサ速度: 2 GHz 以上
- RAM: シングルコアマシンについては最低 2 GB、マルチコアマシンについてはプロセッサ/コアあたり 1GB のメモリ。
大規模な解析に必要な領域は、2 GB を超えることがあります。 ビルドのサイズおよびその RAM の要件は、コードの行数だけではなく、コード内の関係の数および複 度によっても異なります。

ユーザーインストール

Klocwork クライアント	プロセッサ速度	RAM
Klocwork for C/C++	1 GHz 以上	1 GB。 Windows およびプリコンパイル みヘッダーの場合、RAM の最小要件は 2 GB です。
Klocwork for Java	1 GHz 以上	1 GB。
Architect	1 GHz 以上	1～2 GBを推
Klocwork Review および Klocwork Inspect	1 GHz 以上	1～2 GBを推

Java Virtual Machine 要件

Windows

Java 1.6 Update 38

がインストールされていない場合は、サーバー、ユーザー、および分散解析のインストールパッケージに Java 1.6 Update 38 がインストールされます。 Java は、<server_install>/_jvm/bin/ および <user_install>/_jvm/bin/ にインストールされます。 使用中のシステムが、このバージョンの Java の[3]を たしていることが必要です。

新しい Java 1.6 アップデートがインストールされている場合、Java はインストールされず、Insight はこのインストール みバージョンを使用します。

インストールパッケージにより、オペレーティングシステムが 32 ビットと 64 ビットのどちらであるかが 出され、該当するバージョンの Java がインストールされます。

Linux および Solaris

Insight によって Java 1.6 Update 38 がインストールされます。 使用中のシステムが、このバージョンの Java の[3]を たしていることが必要です。

Linux では、32 ビット Java と 64 ビット Java で独立したインストールパッケージがあります。 お使いのオペレーティングシステムに適したパッケージを選 してください。

Solaris の場合、32 ビット Java のみがサポートされます。

Mac

マシンに JVM 1.6 Update 38 かそれ以降をインストールしてから、Klocwork サーバーまたは Klocwork ユーザーパッケージをインストールする必要があります。 以前のバージョンの JVM がインストールされている状態で Klocwork サーバーまたは Klocwork ユーザーパッケージのインストールを試みると、"Version of Java is too old" というエラーメッセージが表示されます。 Apple は独自バージョンの Java を提供しています。 Mac でソフトウェア更新機能を使用してください。

Mac の場合、32 ビット Java のみがサポートされます。

AIX

Insight により IBM Java 1.6 がインストールされ、使用されます。Java 1.6 のシステム要件を満たしていることが必要です。公開時点で IBM Java 1.6 についてサポートされるシステム構成については、以下を参照してください。

<http://www.ibm.com/developerworks/java/jdk/aix/service.html>

AIX の場合、32 ビット Java のみがサポートされます。

IDE プラグイン

Klocwork の Desktop Java Plug-in for Eclipse および Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA には、Java 1.6 が必要です。お使いの IDE が Oracle (Sun) Java 1.6 で実行されていることを確認してください。

サポートされる IDE

注意: Klocwork Insight は、他の Eclipse ベースの IDE との統合にも実績があります。

サポートされる C/C++ IDE

IDE	バージョン
Eclipse	3.4、3.5、3.6、3.7、および 4.2
Wind River Workbench	3.1, 3.2, 3.3
QNX Momentics	4.6, 4.7
Microsoft Visual Studio	.NET 2005、.NET 2008、.NET 2010、および .NET 2012。Visual Studio Express はサポートされません。

サポートされる C# IDE

Klocwork C# 解析は、Microsoft Visual Studio .NET 2005、2008、2010、および 2012 で使用できます。Visual Studio Express はサポートされません。

Smart Device プロジェクトタイプはサポートされません。

サポートされる Java IDE

IDE	バージョン
Eclipse	3.4, 3.5, 3.6, 3.7, 4.2
JetBrains IntelliJ IDEA	10.0、10.5、11.x、12.x
IBM Rational Application Developer for WebSphere	Eclipse ベースのソリューションの "Ready for IBM Rational Software" のレベルの 7.5.x

サポートされるブラウザ

Klocwork Architect レポート、Klocwork Review、および Klocwork Inspect には、ブラウザが必要です。

- Mozilla Firefox - AIX プラットフォーム (3.5.13.1) を除く、現時点における最新リリース
- Internet Explorer 8* および 9
- Apple Safari 5.x
- Google Chrome - 現時点で最新のリリース

*Klocwork Inspect についてはサポートされません

注意: Klocwork Review および Klocwork Inspect では、ブラウザで cookies を有効にしておくことも必要です。

サポートされる PDF リーダー

Klocwork Architect でのレポートの表示に必要です。

- Adobe Acrobat Reader 5.0 以降

Python

- Unix では、マシンで Python 2.7 が 出されなかった場合、Insight インストールにより Python 2.7 がインストールされます。

Klocwork Inspect でサポートされるソースコード管理システム

Inspect

では、チェックイン前およびチェックイン後のコードレビューについて、以下がテストされています。

SCM	サポートされるプラグイン
Base ClearCase 7.x	Eclipse、IntelliJ IDEA
CVS 1.12.x	Eclipse、IntelliJ IDEA
Git 1.7.x	Eclipse、IntelliJ IDEA
TFS 2010	コマンドラインのみ*
Perforce Visual Client 2010.x	コマンドラインのみ*
Subversion 1.4.x、1.6.x、1.7.x	Eclipse、IntelliJ IDEA

*すべての SCM は、コマンドラインでコマンド `kwcodereview` (チェックイン前) または `kwscm` (チェックイン後) を使用してサポートされます。

他の SCM については、カスタマーサポートまでお問い合わせください [4]。

ビルド統合でサポートされる C/C++ コンパイラ

`build specification` (ビルドスペック) の作成中、Klocwork Insight

はデフォルトで自動的に次のコンパイラタイプを 索します。

使用しているコンパイラがこの表にない場合、そのコンパイラのサポートを行えるように

カスタマーサポートに連絡してください [4]。コンパイラ、および `build specifications` (ビルドスペック)

の一般的な作成方法の詳細については、`C/C++ build specification` (ビルドスペック)

の作成を参照してください。

コンパイラタイプ	Klocwork コンパイラコード	標準的なコンパイラバリエーションの名前	導入	改善
Analog Devices Blackfin および TigerSHARC	dsp	ceblkfn、ccts	9.5	
ARM	armcc armlink ar	armcc、armcpp、tcc、tcpp armlink armar	Pre-9.5	
Intel 80X86 用 CADUL C クロスコンパイラ	cadul_compile cadul_link	ccu380 lnku38a	9.6	
Clang	gnu	clang clang++	9.6 SR3	
CodeWarrior Freescale S12	chc12	chc12	9.5	
コンパイラキャッシュツール	ccache	ccache、distcc	9.5	
Cosmic	cosmiccompile cosmiclink	cxsl2x、cx6812、cx6816、cxstm8 clnk	9.5	9.6
Embarcadero コンパイラ/リンカー	bcc blink	bcc32 ilink32	9.5	
Fujitsu FR ファミリー	fcc	fcc911s、fcc907s	9.5	
GNU	gnu gnu_ld	gcc、g++、cc、c++ ld	Pre-9.5	
GNU ar	ar	ar	Pre-9.5	
Green Hills GHS	ghs ghscom ghslink ghsar	gcc、gxx、ccarm、cxarm、ccmips、cxmips、ccintppc、cxintppc ecomarm、ecomppc elxr ax	Pre-9.5	9.6
Hexagon ツール	qdsp	qdsp-gcc、qdsp-g++	9.5	
HI-TECH C コンパイラ/リンカー	picc piclink	picc hlink	9.6	
Hitachi ch38	ch38	ch38.exe	Pre-9.5	
8051/NEC V850/MSP430/M16C/Renesas RX210/CR16C/ARM/Atmel AVR 用の IAR Systems C コンパイラ/リンカー (制限事項を参照)	icc8051 iccv850 icc430 xlink iccm16c iar_rx_compile iar_rx_link icccr16c icccarm ilinkarm iar_avr_compile_filter	icc8051 iccv850 icc430 xlink iccm16c icccrx ilinkrx icccr16c icccarm ilinkarm iccavr	Pre-9.5	9.6
ImageCraft AVR	iccavr	iccavr	9.5	
Intel C++	icc icl	icc、icpc icl	Pre-9.5	
Intel iC-386	c386	c386a	9.6	
Intel XL C/C++	xlc	cc、xlc、xlc および関連コマンド (すべての一覧については、<klocwork_install>/config/kwfilter.conf を参照)	9.5	

Keil CA51	c51 lx51	c51、cx51、c166、c251 lx51、l166、l251	9.5	9.6
MetaWare High C/C++	arc ararc ldarc mcc	harc、hac ararc、arac ldarc、ldac mcc	Pre-9.5	9.5
Metrowerks CodeWarrior	mwc	mwcc、mwccmf	Pre-9.5	
Microchip MPLAB pic24	pic30	pic30-gcc	9.5	
Microsoft Visual C++	mscompile mslink	cl、clarm link、lib	Pre-9.5	
Microtec	mex mlk	mex mlk	9.5	
Motorola DSP563	moto563compile moto563link	g563c dsplnk	9.6	
MPLAB C18	mcc18 mplink	mcc18 mplink	9.5	
Nvidia CUDA	nvcc	nvcc	9.6	
Panasonic C	cc103S ld103S	cc103S ld103S	9.5	
Paradigm C/C++	pcc plink	pcc plink	9.6	
Plan 9 C	plan9 ar	0c、1c、2c、5c、6c、7c、8c、9c、kc、qc、vc ar.l	9.5	
QNX	qnx	qcc	Pre-9.5	
Renesas 78K0R	ren_cc78 cc78k0r	ren_lk78 lk78k0r	9.6	
Renesas SuperH および RX ファミリ	rxcompile rxlink	rxcc、shc optlink	9.5	
Renesas R8C および M16C ファミリ	nc30	nc30	9.5	
Renesas V850	ca850 ld850	ca850 ld850	9.5	
Star Core Freescale	scc sc100-ld	scc sc100-ld	Pre-9.5	
Sun Studio C/C++	sun	CC、cc	Pre-9.5	
Tasking Classic Toolset for C166 コンパイラ/リンカー	tasking_classic_166_compile tasking_classic_166_link	cc166 l166	9.5	9.6
Tasking IFX SLE88	cj2	cj2	9.5	
Tasking Tricore	tricore_compile tricore_link	cctc ltc	9.5	
Tasking VX Toolset for C166 コンパイラ/リンカー	tasking_166_compile tasking_166_link	cc166 lk166	9.6	
Tensilica Xtensa C/C++	xtensa	xt-xc xt-xc++	9.6	
TI ARP32 C/C++	cl_arp32	cl-arp32	9.5	
TI msp430 C/C++	cl430	cl430	9.5	

TI tms320c6x および tms320c55x	cl6x link6x ar6x	cl6x、cl55 link6x ar6x	Pre-9.5	
TI tms320c28x	cl2000 lnk2000 ar	cl2000 lnk2000 ar2000	9.5	
TI tms470	cl470 lnk2000 ar	cl470 lnk470 ar470	9.6	
TriMedia tmcc	tmcc	tmcc、tmCC	Pre-9.5	
WinAVR	gnu ar	avr-gcc、avr-g++ avr-ar	9.6	
Wind River Diab	diab dld ar	dcc、dplus dld dar	Pre-9.5	
Wind River GCC	gnu	ccppc	9.5	
ZiLOG eZ80	ez80cc ez80link	ez80cc ez80link	9.5	

サポートされる C# 言語仕

Klocwork Insight がサポートする C# 言語仕 のバージョンは、1.0、2.0、および 3.0 です。

Klocwork JSP スキャンでサポートされるアプリケーションサーバー

Klocwork' の JSP スキャンは、次のアプリケーションサーバーをサポートします。

アプリケーションサーバー	バージョン
Apache Tomcat	5.5, 6.0
BEA WebLogic	10

サポートされる MySQL のバージョン

データベースサーバーは、MySQL 5.1.66 データベースサーバーです。独自に手動でインストールした MySQL データベースサーバーを使用する場合、そのバージョンは 5.1.66 である必要があります。Klocwork Insight をインストールまたはアップグレードする前に、必要に応じて、個別の MySQL データベースをアップグレードしてください。

サポートされる LDAP サーバー

- Windows Server 2003: Microsoft Active Directory
- Windows Server 2008: Microsoft Active Directory
- Linux: OpenLDAP
- Sun Java System Directory
- Novell eDirectory

- [1] <http://java.sun.com/javase/6/webnotes/install/jre/install-solaris.html#requirements>
- [2] <http://packages.ubuntu.com/jaunty/lib32ncursesw5>
- [3] <http://java.sun.com/javase/6/webnotes/install/system-configurations.html>
- [4] <mailto:support@klocwork.com>Klocwork

前バージョンからのアップグレード

前バージョンからのアップグレード

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>

お使いになる前に

重要な注意事項

バージョン **8.x** からアップグレードする場合、バージョン **9.6** の新しいライセンスが必要です。カスタマーサポート ^[1]に連絡してください。

バージョン **9.1** 以前 からアップグレードする場合: バージョン **9.2** から、データベーススキーマが大きく 更されました。その結果、移行スクリプトは **MySQL** データベース整合性チェックを実行します。これは時間がかかります。

移行にかかる時間を削減するために、手順に示したように、移行前に不要なプロジェクトおよび失敗したビルドを削除。また、プロジェクトルートディレクトリのコピーを作成 し、コピーを移行することをお勧めします。すると、指摘ステータスの 更など、 更はしないように指示されますが、ユーザーは **Klocwork Review** を引き続き使用できます。

デフォルトのサーバー設定を使用しない場合は、アップグレードを開始する前にカスタム設定を指定する必要があります。指定しない場合は、インストール中にこれらの設定がデフォルト設定に ります。

忘れてしまった場合は、アップグレードの完了後にいつでも、環境ごとに設定にアクセスして 更できます。

リリース **9.6**

の最初の解析実行で前回のリリースからの指摘、ステータス 更、またはコメントの損失を回避するために、**Before your first 9.6 統合ビルド解析を必ずお読みください。**

関連項目:

- 移行に影響を与える 更
- ライセンスの 更
- インストール、アップグレード、および展開の制限事項

サポートされるアップグレードパス

主要なリリースの最新のサービスリリースからのアップグレードがサポートされます。

データベーススキーマおよびライセンス 更のため、前のバージョンの **Klocwork Insight** のアップグレードに関しては特定のパスをお勧めします。

下の表で最新のバージョンおよび適切なパスを確認してください。 **8.0**

より前のバージョンからアップグレードする場合は、カスタマーサポート

^[1]に連絡して詳細な手順を確認してください。

現在使用している Insight のバージョン	適用するサービスリリース	アップグレードパス
8.0	8.0 SR3	8.0 SR3 --> 9.0 SR1 --> 9.6 SR3
8.1	8.1 SR1 更新	8.1 SR1 更新 --> 9.1 GA --> 9.6 SR3
8.2	8.2 SR1	8.2 SR1 --> 9.2 SR3 --> 9.6 SR3
9.0	9.0 SR1	9.0 SR1 --> 9.6 SR3
9.1	なし	9.1 --> 9.6 SR3
9.2	9.2 SR3	9.2 SR3 --> 9.6 SR3
9.5	9.5 SR1	9.5 SR1 --> 9.6 SR3

Insight 8.0 からの重大な 更内容

このリリースの新機能または 更機能については、新機能およびリリースノートを参照してください。

古いリリースの

1

つからアップグレードする場合は、間にあるバージョンの新機能およびリリースノートも参照し、それらの 更機能を理

アップグレード中、およびアップグレード後にユーザーに最も影響を与えると思われる **Insight 8.0**

以降の 更内容を以下に示します。

Insight 8.1

C/C++ ソースルートディレクトリからプロジェクトを作成することができなくなりました。 **C/C++**

プロジェクトは、以下のいずれか 1 つに基づく必要があります。

- build specification (ビルドスペック)
- Visual Studio のプロジェクト、ソリューション、またはワークスペース
- 既存のテーブル

Java

ソースルートディレクトリからのプロジェクトの作成は引き続きサポートされますが、サポートされるのは非 Ant 環境でビルドされたプロジェクトのみです。

統合ビルド解析の実行の詳細については、統合ビルド解析を参照してください。

Insight 8.2

- 指摘ステートがデスクトップ解析ツールにより表示されなくなりました。
代わりに、ローカルに導入された指摘は "ローカル" として識別され、統合ビルド解析で識別された指摘は "システム" として識別されます。
これにより、指摘の 索および修正が簡単になりました。 報告元 (ローカルまたはシステム) を参照してください。
- バージョン間とビルド間で指摘がマッピングされる仕組み:
一般に、行および列の番号、関数シグネチャ、および関数名に する 更が、バージョンおよびビルドの間で正常に処理され、たとえば、行番号のみが 更されている場合、指摘が伝播されます。
一方、上記のすべてが 更されている場合、正常に伝播されるかどうかは、同じ関数について同 の指摘が報告されて報告された指摘を含むファイルの名前が 更されている場合、指摘は移行または伝播されません。
また、解析エンジンは別々の 数に関連付けられた指摘を区別する必要があるため、数名の 更は、移行および伝播のどちらの場合も、"修復 み" または "新規" の指摘が報告されると、既存の指摘が報告されます。
- 指摘のグループ化の方法の 更による、報告された指摘の件数の 更の可能性: **Insight 8.2**
より前では、同じタイプの同 の指摘を、1 つの指摘として報告するか、または複数の指摘として報告するかを指定することができました。
この機能を制御していた **KMC** のオプション "Group similar errors" がバージョン 8.2

から削除されました。バージョン 8.2 では、同じタイプの同 の C/C++ の指摘は 1 つの指摘として報告されます。同じタイプの同 の Java の指摘は複数の指摘として報告されます。これは、以前のバージョンの Klocwork ではデフォルトの動作でした。バージョン 8.1 以前でデフォルトの動作を 更した場合、バージョン 8.2 以降で初めて解析を実行すると、報告された指摘の件数に違いがあることがあります。

Insight 9.0

- **Basic**、LDAP、または NIS
のアクセス制御が設定されるときセキュリティを強化するために、Klocwork サーバーで、すべてのユーザーの認証が必要です。GUI ツールの場合、ログインを促すプロンプトがダイアログで表示されます。コマンドラインツールでは、新しいコマンド `kwauth` の実行をプロンプトにより求められます。各ユーザーがログインする必要があるのは 1 回だけです。トークンはユーザーのホームディレクトリに保存されます。ユーザーのパスワードは保存されません。アクセス制御のセットアップを参照してください。
- 9.0 より前のバージョンからアップグレードする場合は、Klocwork Insight を実行するための新しいライセンスが必要です。
- **continuous analysis** (続的デスクトップ解析) デフォルトでは、C/C++ plug-in for Visual Studio および C/C++ plug-in Eclipse は、Klocwork Desktop と同 に **continuous analysis** (続的デスクトップ解析) を実行し、ファイルへのアクセスまたはファイルの保存の度に指摘を確認することにより、エディターでの作業中に
- プロジェクトサーバーおよび **Web** サーバーが統合され、**Klocwork** サーバーと呼ばれるようになりました。 `connected desktop` (コネクテッドデスクトップ) は、プロジェクトサーバーではなく **Klocwork** サーバーとリンクするようになりました。

Insight 9.1

- ビルド構成から報告が独立しました。
- 移行中、指摘のカテゴリは分類基準に 換されます。これにより、[2]が影響を受けることがあります。
- **Insight** の前のバージョンでビルドされたテーブルのロードができなくなりました。代わりに、`build specification` (ビルドスペック) を `kwbuildproject` に提供してプロジェクトを再解析する必要があります。

Insight 9.2

- Java と C/C++ の両方に し、1つの **Eclipse** 更新サイトのみとなりました。Unix および Windows インストーラのインストールオプションは、Eclipse です。
- すべての Windows パッケージのインストール時には、管理者アクセス が必要です。
- パフォーマンスの 更により、MySQL データベースの 更が必要となりました。移行中にデータベース整合性チェックが実行されるため、以前のリリースよりもかなり多くの時間が移行にかかりま
- Windows マシンで **Java 1.6** が 出されなかった場合、Klocwork インストールパッケージによりインストールされます。
- コンパイラフィルターファイル (`<compiler_name>_filter.xml`) が削除されました。これらのファイルを移行する必要はありません。すべてのコンパイラ構成ファイルは、Python スクリプトに含まれています。これらは、編集できません。すべてのコンパイラ設定の問題については、カスタマーサポート ^[1]までお問い合わせください。詳細については、サポートされていない C/C++ コンパイラの追加を参照してください。

Insight 9.5

- 現在は、Insight データを前バージョンから移行する方法が多少異なります。
- 指摘重要度とステートを分類する方法は多少異なり、プロジェクトの最初の統合ビルド解析をした後で明らかに **Before your first 9.6統合ビルド解析**を参照してください。バージョン 9.5 とそれ以前のバージョンの間で指摘重要度をマッピングする必要がある場合は、カスタマーサポート ^[1]まで連絡してください。
- Insight の "スコープ" の概念は、ビューに置換されました。ヘルプ - Klocwork Review のスコープ機能を使い慣れているを参照してください。
- カスタムレポートには、扱いが異なるものがあります。統合ビルド用のレポートおよび Klocwork Review でのメトリックレポートのカスタマイズを参照してください。
- Insight の "コンポーネント" の概念は、モジュールに置換されました。modules.xml ファイルはサポートされていません。既存のファイルは、移行中にモジュールに 換されます。換できないモジュールはすべて、kwmigrate.log に報告されます。コードのモジュール編成を参照してください。
- Insight 9.5 には、次の 3 つの新規の役割があります。それらは、ビルドエンジニア、デベロッパー、マネージャーですが、移行された projects_root については、役割はデフォルトでは存在しません。Klocwork プロジェクトへのアクセスの有効化を参照してください。
- Visual Studio では、ローカルな欠陥は前バージョンから移行されません。
- Windows および Linux には、64 ビット Java のサポートが追加されました。該当するインストールページを参照してください。
- 管理タスクはすべて、KMC から Klocwork Review へ移動しました。多くの新規 Web インターフェイス機能が付属し、プロジェクトとビルド、ユーザー、役割の管理が簡単になりました。統合プロジェクトとビルドの管理を参照してください。
- デスクトップ解析の改善には、次のものがあります。
 - Windows および Linux の 64 ビット JVM での Eclipse プラグインのサポート。
 - IntelliJ IDEA 10 および 10.5 における Klocwork Desktop Java Plug-in のサポート。Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA のヒントと方法を参照してください。
 - C/C++ の他、Java プロジェクト向け Klocwork Desktop サポート。Klocwork Desktop for Java をお使いになる前にを参照してください。
 - 多数の C++11 言語 張機能の追加サポート。C/C++ 言語 張機能 ^[3]を参照してください。
- Klocwork Visual Studio C/C++ および Eclipse C/c++ のすべてのユーザーは、別のライセンスなしで Klocwork Refactoring にアクセスできるようになりました。Klocwork Refactoring を参照してください。
- Klocwork Inspect では、より多くの SCM をサポートしています。サポートされている SCM を参照してください。
- 新規 C/C++ コンパイラのサポートが追加されました。サポートされている C/C++ コンパイラを参照してください。

リリース間の相互運用

Klocwork Insight 9.6より前のクライアントは Klocwork Insight 9.5 サーバーで使用できません。サーバーインストールおよびユーザーインストールを Klocwork Insight 9.6 にアップグレードする必要があります。

2つのバージョンの Klocwork サーバーの実行

たとえば既存のサーバーへのアクセスを 続しながら Klocwork Insight 9.6 サーバーをテストするなど、2 セットの Klocwork サーバーを実行する場合は、別々の projects_root ディレクトリでそれらを実行する (そして、ポートを適切に設定する) 必要があります。

バージョン 8.x と 9.x 使用時のライセンス供与の取り扱い

Insight のバージョン 8.x と 9.x では、2 つの異なるライセンスバージョンを使用します。ただし、8.x と 9.x の両方を同時に実行することはできません。両バージョンを実行するシナリオは 3 つあります。

状況	操作
新バージョンをテストするために独立した projects_root を設定する	Insight 9.6 を新しい場所にインストールし、新しいライセンスファイルを新しいインストール環境の <projects_root>/licenses ディレクトリにコピーします。 各インストール環境に してライセンスサーバーを実行します。
既存の projects_root のアップグレード	新しいライセンスファイルの内容を 8.x ライセンスファイルに追加します。 8.x インストール環境からライセンスサーバーだけを実行します。 そのバージョン 9.6 が以前のライセンスサーバーを指定する方法は、次の 2 つです。 <ul style="list-style-type: none"> インストール時に、ウィザードまたはインストールスクリプトで該当するホストとポートを指定します。 Klocwork Insight のインストールを参照してください。 インストール後なら、kwservice set-service-property を使用します。 Klocwork サーバー設定の表示と 更を参照してください。
バージョンごとに独立した運用環境の projects_roots を実行します (たとえば、1 つのグループをアップグレードし、別のグループは引き続きバージョン 8.x を使用する場合など)。	Insight 9.6 を新しい場所にインストールし、新しいライセンスファイルを新しいインストール環境の <projects_root>/licenses ディレクトリにコピーします。 各インストール環境に してライセンスサーバーを実行します。

注意: Klocwork Insight に同梱してあるライセンスサーバーではなく、組織の FLEXlm ライセンスサーバーを使用する場合、Insight と FLEXlm ライセンスサーバーが連携できるよう構成する必要があります。また、Klocwork ライセンスファイルを正しい場所に配置する必要があります。 組織の FLEXlm サーバーの使用を参照してください。

アップグレードの準備

サーバーの起動および停止方法の詳細については、Klocwork サーバーの起動および Klocwork サーバーの停止を参照してください。

アップグレードの準備をするには:

1. 移行する projects_root については、以下を実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> check
```

2. 実行中のサーバーおよび使用中のポートについて書き留めます。 新しいバージョンの Klocwork Insight に移行した後、サーバーはこれらのポートで実行されるようになります。
3. サーバーを停止します。
4. 復元ポイントを作成するために、移行するプロジェクトルートディレクトリの完全なバックアップを作成します。 Klocwork Insight のアップグレード後は、アップグレードを元に戻しません。

詳細については、Klocwork データのバックアップを参照してください。

5. 構成ファイル (kwmysql.ini、kwfilter.conf など) をカスタマイズした場合は、<server_install>/config ディレクトリのバックアップを作成します。
6. サーバーを起動します。
7. **重要:** Klocwork データの移行にかかる時間を削減するために、Klocwork では次のことを強くお勧めします。
 - 移行しない以前のバージョンから、プロジェクトを削除します。 `kwadmin delete-project` を参照してください。
 - 以前のバージョンから、失敗したプロジェクトビルドを削除します。ここで 明するようにプロジェクトを移行した後、以前のリリースで失敗したビルドを再開することはできません。ただし、テーブルからビルドをロードすることはできます。 `kwadmin delete-build` を参照してください。
8. Klocwork サーバーを Windows Services として実行しない場合は、サーバーを停止します。
9. (オプション)2
番目の復元ポイントを作成するために、移行のために準備したプロジェクトルートディレクトリのバックアップを作成
10. 既存の Klocwork ライセンスを安全な場所に保存します。
11. 混乱を回避するために、古い Klocwork のログを <projects_root>/logs から削除します。

個別の MySQL データベースサーバーを使用している場合

Klocwork データベースサーバーは、MySQL 5.1.66 データベースサーバーです。独自に手でインストールした MySQL データベースサーバーを使用する場合、そのバージョンは 5.1.66 であることが必要です。Klocwork Insight をインストールまたはアップグレードする前に、必要に応じて、個別の MySQL データベースをアップグレードしてください。

Insight サーバーパッケージのインストール

バージョン 9.6 サーバーパッケージをインストールします。手順については、以下を参照してください。

- Windows への Klocwork サーバー パッケージのインストール -- アップグレードのみ
- Unix への Klocwork サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ
- Mac への Klocwork サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ

データベースの 証 (必須)

dbvalidate は、データベースのデータの一貫性をチェックするツールです。このツールは、Insight バージョン 8.2 以降で使用できます。移行前にデータベースのエラーを修正できるようにするには、このツールの実行が必須です。

注意:

データベースを 証するには、古いインストールのデータベースサーバーを実行する必要があります。次のコマンドを実行します。

```
java -jar <9.6_server_install>/class/dbvalidate.jar --db <host> --port <port> [--password <password>]
```

ここで

- <9.6_server_install> は新しいインストールディレクトリです。

- <host> は、証象のデータをホストしているデータベースサーバーのホスト名です (デフォルト: localhost)。
- <port> は、証象のデータをホストしているデータベースサーバーのポート番号です (デフォルト: 3306)
- <password> は、データベースのパスワードです。パスワードが割り当てられている場合にのみこのオプションを指定します。

例

```
java -jar C:/Klocwork/class/dbvalidate.jar --db TITAN --port 3308 --password secret_password
```

```
java -jar C:/Klocwork/class/dbvalidate.jar --db TITAN --port 3308
```

dbvalidate は、" 証の開始" から " 証の完了" までの行のエラーを報告します。

```
Wed Jun 01 07:53:58 CDT 2011 kw_central database (バージョン: 95) 証が開始されました
< 出されたエラーを表示>
```

```
Wed Jun 01 07:54:28 CDT 2011 データベース 証が終了しました。
```

- エラーが表示される場合は、移行前にエラーを修正できるように Klocwork カスタマーサポート [\[1\]](#)に連絡してください。
- エラーが表示されない場合は、データベースは正常に証されました。

新しいライセンスの正しいディレクトリへの配置

カスタマーサポートから新しいライセンスファイルを受け取った場合、<projects_root>/licenses にコピーします。

注意: ライセンスオプションの詳細については、ライセンスのカスタマイズを参照してください。

ライセンスを予約した場合、新しいオプションファイルを作成する

Insight 9.x からライセンスキーが 更されたため、Insight 8.x からアップグレードしようとしているときにオプションファイルを使用してユーザーまたはホストのライセンスを予約ライセンスの予約を参照してください。

Klocwork データの移行

projects_root を移行するために、<Klocwork_9.6_Server_install>/bin から次のコマンドを実行します。:

```
kwservice --projects-root <old_projects_root> start --migrate
```

projects_root が正常に移行された場合、移行された projects_root から取得したポート番号で、Klocwork サーバーが起動します。

注意

- Klocwork サーバーを Windows Services の一環として実行している場合、--migrate オプションを使用したサーバーを起動した後、kwservice --projects-root <migrated_projects_root> stop を使用してサーバーを停止します。その後、Windows Services Administration を使用して Insight 9.6 サービスを起動します。
- Unix で SSH を使用して、または Windows で Windows Services Administration を使用して、Klocwork サーバーをリモートで管理できます。それ以外の場合は、start、restart、および stop コマンドをローカルに発行する必要があります。

- 上記のコマンドは、`projects_root`にあるすべての外部構成ファイルを UTF-8 に 換します。 Klocwork Insight 8.1 では、すべての外部構成ファイルは、日本語などのマルチバイト文字が含まれている場合は、UTF-8 で暗号化されている必要があります。外部構成ファイルは、編集可能な構成ファイルに記載されているファイルです。

構成ファイルまたはメトリックファイルをカスタマイズした場合

- `<old_Klocwork_install>/config/kwmysql.ini`にある **MySQL** 構成ファイルを 更した場合新しいインストールの `kwmysql.ini` も同 に 更します。

注意: Insight 9.2 以降で使用するバージョンの MySQL では、次のフィールドはサポートされません。以前の `kwmysql.ini` ファイルにこれらのフィールドが含まれる場合、これらの行を新しいファイルにコピーしないでください。

```
skip-bdb
myisam_max_extra_sort_file_size
```

重要: カスタマイズした構成ファイルを新しい Insight インストールにコピーしないでください。代わりに、新しくインストールした構成ファイルに して同 のカスタマイズを行います。
- `<old_Klocwork_install>/config/kwfilter.conf`にあるコンパイラマッピングファイルを 更した場合新しいインストールの `kwfilter.conf` も同 に 更します。

重要: カスタマイズした構成ファイルを新しい Insight インストールにコピーしないでください。代わりに、新しくインストールした構成ファイルに して同 のカスタマイズを行います。
- 次のファイルは Insight 9.5 では使用されないため、移行の必要がありません。
 - コンパイラ構成ファイル (`kwcc_config.xml`)

詳細については、`kwinject エラー - コンパイラを構成できません`を参照してください。
 - コンパイラフィルターファイル (`<compiler_name>_filter.xml`)

カスタマー サポートに連絡して、`*_filter.xml` ファイルを Python スクリプトで置換できるようにする必要があります。詳細については、サポートされていない C/C++ コンパイラの追加を参照してください。
- カスタムメトリックレポートを **Klocwork Review** に追加した場合、カスタムメトリックレポート構成ファイル (`metrics.xml`) を編集する必要があります。 Klocwork Insight 9.0 より前では、`metrics.xml` ファイルは次の場所にありました。


```
<server_install>/webapps/review/reporting/config
```
- Klocwork Insight 9.0 では、`metrics.xml` ファイルは次の場所にあります。


```
<projects root>/config
```

注意

- Klocwork Insight 9.0 では、`metrics.xml` ファイルは、Klocwork インストール全体ではなく、プロジェクトルートディレクトリに適用されます。このため、複数のプロジェクトルートディレクトリがある場合、カスタマイズした `metrics.xml` ファイルを各 `projects_root` にコピーする必要があります。
- Klocwork Insight 9.0 では、`metrics.xml` ファイルのカスタマイズ後に Klocwork サーバーを再起動する必要があります。

Klocwork Review でのメトリックレポートのカスタマイズを参照してください。

アップグレードのテスト

プロジェクトおよびビルドが **Klocwork Review** に表示されることを確認します。

新しいライセンスファイルをインストールした場合、ライセンス数が正しいことのチェックにより、ライセンスファイル

すべてのクライアントインストールのアップグレード

Klocwork のすべてのクライアントが **Insight 9.6** にアップグレードしたことを確認します。**Insight 9.6** より前のクライアントは、**Insight9.6** サーバーとは相互運用できません。

新バージョンの

Klocwork

ユーザーパッケージをインストールする前に、以前のバージョンをアンインストールしてください。**Windows** の場合、インストールパッケージにより、以前のバージョンのユーザーパッケージがインストールされているかどうかを確認してください。ユーザーが自分でインストールパッケージを実行する場合、インストール中にユーザーが自分で設定できるように、**Klocwork** サーバーおよびライセンスサーバーのホストおよびポートの情報をユーザーに通知します。

Klocwork ユーザーパッケージのインストールの詳細については、**Klocwork Insight** のインストールを参照してください。

他のプロジェクトルートディレクトリでアップグレードのステップを繰り返す

別の `projects_root` を移行するには、この章で 明した (**Klocwork** のインストールを除く) ステップを再度実行します。

2

番号以降のプロジェクトルートディレクトリのためのアップグレードのステップのサマリーは、次のとおりです。

1. アップグレードの準備をします。
2. 次を実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> start --migrate
```

3. カスタマイズしたコンパイラ構成ファイルがあれば、それを再作成します。
4. カスタムメトリックレポートを **Klocwork Review** に追加した場合、カスタムメトリックレポート構成ファイル (`metrics.xml`) を編集します。
5. アップグレードをテストします。

最初のバージョン **9.6** 統合ビルド解析の前に

通常、新しいリリースの

Insight

には、現在のイベントに して顧客の要求に えるようにチェッカー設定が 更されています。

これらの 更は、以前のリリースからのチェッカー設定と新しいリリースの設定が異なっていることを意味している可能

新しいリリースに移行する場合、以前のリリースでの解析実行による指摘、ステータス 更、およびコメントは、新しい

新しいリリースでチェッカーがデフォルトで無効にされた場合、古い解析実行による指摘またはステータス 更が失われ

これを行うには、古い設定に する正しいチェッカーが有効になっていることを確認してください。

新機能 の無効になっている `C/C++` チェッカーを参照し、チェッカー設定を 更してください。

設定が完了したら、`perform your first version 9.6`

修正されないソースコードでの統合ビルド解析を実行します。

注意: 既に最初の **9.6**

解析を実行しており、指摘またはステータス 更の一部が欠落している場合は、そのビルドを削除し、チェッカーを再設

最後のプレアップグレード統合ビルド解析と最初のバージョン 9.6
 解析を同じソースコードに実行してから、2 つのビルドを比較することをお勧めします。
 こうすると、解析エンジンの 化を正しく評価できます。
 このバージョンのチェッカーの改良、追加、削除の詳細については、新機能を参照してください。

[1] <mailto:support@klocwork.com>

[2] http://www.klocwork.com/products/documentation/Insight-9.1/What%27s_New#Changes_to_detected_issue_counts_due_to_conversion_of_categories_to_taxonomies

[3] http://www.klocwork.com/products/documentation/Insight-9.5/System_requirements#Supported_C.2B.2B11_language_extensions

Windows への Klocwork サーバー パッケージのインストール -- アップグレードのみ

<yambe:breadcrumb>前バージョンからのアップグレード</yambe:breadcrumb>このページでは、アップグレード時に Klocwork サーバーパッケージをインストールする手順について 明します。

重要:これはアップグレードの開始点ではありません。前バージョンからのアップグレードから始めてください。

お使いになる前に

ソフトウェアはどこで入手できますか?

パッケージは Klocwork サポート ^[1]からダウンロードします。通常は、組織内で my.klocwork へのアクセス 限を持っているのは 1 人か 2 人のユーザーだけです。アクセス 限を持っていない場合、Klocwork カスタマーサポート ^[1]まで連絡してください。

必要なパーミッション

- インストールウィザードを使用するか自動インストールを実行するにかかわらず、Windows パッケージをすべてインストールするには、Administrator アクセス 限が必要です。
- Klocwork サーバーのインストール時には、Administrator アクセス 限が必要です。
- Klocwork サーバーを起動する (そして、Klocwork サーバーを Windows Services として実行する) には、Administrator パーミッションが必要です。
- Windows Server 2008 の場合、ルートディレクトリに配置された projects_root にアクセスする Klocwork ツールを起動するには、'管理者として実行' オプションを使用する必要があります。

インストールウィザードの実行

Klocwork

サーバーのインストールウィザードを、プロンプトに従って実行します。次の点に注意してください。

- インストールパッケージにより、オペレーティングシステムの 32 ビットと 64 ビットの別が自動的に 出され、該当するバージョンの Java がインストールされます。
- **注意:** サーバーパッケージと `projects_root` を `Program Files` ディレクトリにインストールしないでください。Windows 7 と Windows Server 2008 のデフォルトのセキュリティ設定により、`Program Files` ディレクトリ内ファイルへの書き込みが制限されています。
- [セキュアなサーバー接続 (HTTPS) を使用する] チェックボックスの詳細については、Klocwork サーバーセキュア接続の使用を参照してください。
- `projects_root` ディレクトリの場所を求めるプロンプトが表示されたら、移行する古い `projects_root` ディレクトリを指定します。
- インストール時に Klocwork サーバーのホスト名とポート番号を設定する必要はありません。この情報は、移行時に古い `projects_root` ディレクトリから取得されます。
- 自動的に Klocwork サーバーを `Windows Services` として起動する場合は、このオプションを選 しないでください。サーバーは後のステップで起動されます。
- `Klocwork bin` ディレクトリ (`<server_install>\bin`) が自動的にシステムパス環境 数に追加されます。

ログファイル

Klocwork インストールパッケージの 1 つが Windows で起動される場合は常に、インストールログファイルはローカル設定の一時ディレクトリに保存されます。たとえば、Windows 7 ではインストールログファイルは `\Users\<user>\AppData\Local\Temp` に保存されます。

ログファイルの名前は、`Klocwork<release_number>-<package>.log` となります。たとえば、Klocwork 9.6

サーバーパッケージのインストールログファイルの名前は、`Klocwork9.6-Server.log` です。

インストール中に、Klocworkのルートインストールディレクトリに logs ディレクトリも作成されます。

たとえばサーバーインストールの場合、サーバーが最初に起動され、プロジェクトルートディレクトリが初期化される。出力を保存します。

次は何?

ここで、データベースを 証します。

[1] <http://developer.klocwork.com/support/public>

Unix への Klocwork

サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>

このページでは、アップグレード時に

Klocwork

サーバーパッケージをインストールする手順について 明します。

重要:これはアップグレードの開始点ではありません。前バージョンからのアップグレードから始めてください。

お使いになる前に

ソフトウェアはどこで入手できますか?

パッケージは [Klocwork サポート](#) ^[1]からダウンロードします。通常は、組織内で `my.klocwork` へのアクセス 限を持っているのは 1 人か 2 人のユーザーだけです。アクセス 限を持っていない場合、[Klocwork カスタマーサポート](#) ^[1]まで連絡してください。

インストールに関する注意事項

- **Linux 限定:** 32 ビット版 Java と 64 ビット版 Java で独立したインストールパッケージがあります。お使いのオペレーティングシステムに適したパッケージを選んでください。
- ダウンロードした `.sh` ファイルが実行可能ファイルであることを確認します。 `chmod` コマンドを使用し、適切なパーミッションを設定します。
`chmod 755 <kw-installer.sh>`
- **Klocwork** のインストール時にパーミッションを制御するには、`umask` の値を 更します。
- **Klocwork** ソフトウェアはルートユーザー以外でインストールします。
- 組織で **GCC** を使用している場合、正しいバージョンのコンパイラが `PATH` にあることを確認してから、インストールプログラムを実行してください。 **GCC** コンパイラを `PATH` に含めると、作成するプロジェクトすべての標準 **GCC** ライブラリと定義へのデフォルトリンクが自動的に作成されます。標準ライブラリと定義を除外することで、特定のプロジェクトまたはビルドのデフォルト値をだれでもオーバーライ
組織で **GCC** を使用していない場合、インストールプログラム実行時に **GCC** を `PATH` に含めないでください。
- この製品をインストールするパスがユーザーがこの製品を呼び出すパスと同じであることを確認してください。たとえば、インストール環境へのローカルパスが `/local/tools/klocwork` でも、他のマシンにいるユーザーは **NFS** パス `/opt/tools/klocwork` を使用してこの製品を呼び出さなければなりません。したがって、ユーザーがこの製品を確実に呼び出せるようにするには、インストール時に `/opt/tools/klocwork` パスを使用します。
- **重要:** **MySQL** の制限事項のため、プロジェクトルートディレクトリを **NFS** 上に配置しないでください。このディレクトリは、**MySQL** が完全にはサポートしていない特殊ファイルロッキングを実装しています。 [in the MySQL documentation](#) ^[1]も参照してください。

インストールパッケージの実行

次のコマンドを実行します。

```
kw-server-installer-9.6.x.x.<platform>.sh -p <projects_root> [options] <install_directory> [component ...]
```

ここで

- <platform> は、solaris, linux または aix です。
- <projects_root> は移行する古い projects_root ディレクトリの場所です。
- [<options>]
は、サーバーパッケージ用のコマンドラインオプションに一覧表示されているオプションのいずれかです。

注意:インストール時に

Klocwork

サーバーのホスト名とポート番号を設定する必要はありません。この情報は、移行時に古い

projects_root ディレクトリから取得されます。

- <install_directory> は、Klocwork をインストールするディレクトリを指定します。projects_root ディレクトリのサブディレクトリは指定しないでください。選 じたディレクトリが空でない場合は、インストールを
 - [<component ...>]
は、サーバーコンポーネントの引数の任意の引数です。コンポーネントが複数個ある場合は、スペースで区切りま
- つ以上のコンポーネントを指定しない場合、パッケージ全体がインストールされます。--list オプションを使用すると、さまざまなコンポーネントの引数のリストを表示することもできます。返された出力にア

例

```
kw-server-installer-9.6.0.0.linux.sh -p /space/old_projects_root /opt/klocwork
```

サーバーパッケージ用のコマンドラインオプション

名前	短い名前	明!
--agree	-a	ライセンス契約を表示しないでライセンス条項に同意します。
--database-port <port_number>		データベースサーバーの実行に使用するポート番号を指定します。 デフォルト: 3306. このオプションは、kwservice でポート番号を指定することと等価です。
--debug		デバッグ情報を表示します
--force	-f	整合性チェックを行わないでインストールします
--help	-h	このヘルプを表示して終了します
--klocwork-port <port_number>		Klocwork サーバーの実行に使用するポート番号を指定します。 デフォルト: 8080. このオプションは、kwservice でポート番号を指定することと等価です。
--license-port <port_number>		ライセンスサーバーがローカルに実行されても、非デフォルトのポートで実行されることを指定します。 デフォルト: 27000. このオプションは、kwservice でポート番号を指定することと等価です。
--license-server <host>[:<port>]		リモートライセンスサーバーホストを指定します。 ホスト引数は必須ですが、ポート引数はオプションです。 デフォルト: localhost:27000. このオプションは、kwservice でホストとポートを指定することと等価です。 組織の FLEXlm サーバーの使用も参照してください。
--list	-l	使用できる機能 (コンポーネント) を列 します。

<p>--projects-root <directory></p>	<p>-p</p>	<p>非デフォルトプロジェクトルートディレクトリへの完全パスを指定します。 デフォルト: <install_directory>/projects_root. 指定するディレクトリは、次の条件のうちいずれかを たしている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • まだ存在しません。 • 空です。 • 以前に作成された有効なプロジェクトルートディレクトリです。 指定 みのルート Klocwork インストールディレクトリと同じディレクトリを指定しないでください。 Klocwork をプロジェクトルートディレクトリのサブディレクトリにインストールしないでください。 <p>重要: アップグレードしている場合、移行する 古い方の プロジェクトルートディレクトリを指定してください。</p>
<p>--use-ssl</p>		<p>Klocwork サーバーセキュア接続 (HTTPS) の使用</p>
<p>--version</p>	<p>-v</p>	<p>Klocwork ソフトウェアのバージョンを表示し、終了します。</p>

サーバーコンポーネントの引数

インストールするサーバーコンポーネント (機能)	入力する引数
データベースサーバー	DatabaseServer
ライセンスサーバー	LicenseServer
Klocwork サーバー	KlocworkServer
管理解析管理ツール	BuildTools

PATH への Klocwork の追加

Unix では、PATH に <Klocwork_install>/bin を追加することをお勧めします。 そうしない場合は、コマンドを <Klocwork_install>/bin から実行する必要があります。

次は何?

ここで、データベースを 証します。

[1] <http://dev.mysql.com/doc/refman/5.0/en/innodb-restrictions.html#warning>

Mac への Klocwork

サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>

このページでは、アップグレード時に

Klocwork

サーバーパッケージをインストールする手順について 明します。

重要:これはアップグレードの開始点ではありません。前バージョンからのアップグレードから始めてください。

お使いになる前に

ソフトウェアはどこで入手できますか？

パッケージは [Klocwork サポート](#) ^[1]からダウンロードします。通常は、組織内で `my.klocwork` へのアクセス 限を持っているのは 1 人か 2 人のユーザーだけです。アクセス 限を持っていない場合、[Klocwork カスタマーサポート](#) ^[1]まで連絡してください。

前提条件

- **JVM バージョン:**マシンに **JVM 1.6 Update 38** かそれ以降をインストールしてから、Klocwork サーバーまたは Klocwork ユーザーパッケージをインストールする必要があります。以前のバージョンの **JVM** がインストールされている状態で Klocwork サーバーまたは Klocwork ユーザーパッケージのインストールを試みると、"Version of Java is too old" というエラーメッセージが表示されます。Apple は独自バージョンの **Java** を提供しています。Mac でソフトウェア更新機能を使用してください。
- **アクセスレベル:**Mac パッケージのインストール時には、**Administrator** アクセス 限が必要です。
- **組織で GCC を使用している場合、正しいバージョンのコンパイラが PATH** にあることを確認してから、インストールプログラムを実行してください。GCC コンパイラを PATH に含めると、作成するプロジェクトすべての標準 GCC ライブラリと定義へのデフォルトリンクが自動的に作成されます。標準ライブラリと定義を除外することで、特定のプロジェクトまたはビルドのデフォルト値をだれでもオーバーライズ組織で GCC を使用していない場合、インストールプログラム実行時に **GCC** を PATH に含めないでください。

インストールパッケージの実行

サーバーのインストールパッケージをデスクトップにコピーし、プロンプトに従って実行します。次の点に注意してください。

- **Klocwork** のサーバーおよびユーザーパッケージのすべてのコンポーネントがインストールされます。インストールするコンポーネントを選択するオプションは、インストール時に表示されます。
- [サーバー設定] 画面で `projects_root` の場所を求めるプロンプトが表示されたら、移行する古い `projects_root` ディレクトリを指定します。
- インストール時に **Klocwork** サーバーのホスト名とポート番号を設定する必要はありません。この情報は、移行時に古い `projects_root` ディレクトリから取得されます。

インストールディレクトリ

- サーバーパッケージは、/Applications/ および /Library/Frameworks/ ディレクトリにインストールされます。
- /usr/local/kw/ にあるシンボリックリンクを使用して、コマンドラインツールにアクセスします。

トラブルシューティング

コンソール **([Applications] > [Utilities])** または `var/log/install.log` から、インストールログをチェックします。

次は何?

ここで、データベースを 証します。

サーバーパッケージのインストール

Klocwork Insight のインストール

インストール前に: システム要件 | リリースノート | Klocwork パッケージとコンポーネントについて

サーバーインストール

- ライセンスの取得
- Windows への Klocwork サーバー パッケージのインストール
- Unix への Klocwork サーバーパッケージのインストール
- Mac への Klocwork サーバーパッケージのインストール
- Klocwork サーバー設定の表示と 更

アップグレード

- 前バージョンからのアップグレード
- 新規またはアップグレード版 IDE 向けカスタムインストールの実行
- Klocwork Insight のアンインストール

インストールのトラブルシューティング

- インストール中のセットアップ初期化ファイルの読み取りエラー
- Windows にインストールした Klocwork Insight の修復
- LAN 上で実行されている Klocwork サーバーの 出
- ソケットファイルのパスが長すぎるためにデータベースサーバーを起動できない

ユーザー/クライアントインストール

- Windows への Klocwork ユーザーパッケージのインストール
- Unix への Klocwork ユーザーパッケージのインストール
- Mac への Klocwork ユーザーパッケージのインストール

Eclipse ユーザー向け:

- Eclipse 更新サイトからの Klocwork プラグインのインストール

追加のインストールのトピック

- 分散解析パッケージのインストール
- Windows への自動インストール
- インストールのテスト

- Windows のインストール後に Klocwork サーバーを起動できない
- データベース接続エラー
- パッチをインストールした後に Visual Studio でパッケージロードエラーが発生する
- IntelliJ IDEA インストールが 出されませんでした。プラグインがインストールされていません
- インストールの制限事項

Windows への Klocwork サーバー パッケージのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>

このページでは、インストールウィザードを使用して **Klocwork**
サーバーパッケージをインストールする手順について 明します。 **Klocwork**
サーバーパッケージおよびユーザーパッケージの自動インストールの手順については、Windows
への自動インストールを参照してください。

ユーザー自身がダウンロードしてインストールできる場所にユーザーパッケージを配置 ("pull"
インストール) することも、(そのために組織が設定されている場合には) ソフトウェア管理システム
(SMS) または同 のシステムによりユーザーのためにクライアントを自動インストール ("push")
することもできます。 "pull"

インストールのシナリオでは、ユーザーパッケージにアクセスできる場所をデベロッパーに知らせる必要があります。

お使いになる前に

アップグレードですか? 前バージョンからのアップグレードを参照してください。

ソフトウェアはどこで入手できますか?

パッケージは **Klocwork** サポート ^[1] からダウンロードします。 通常は、組織内で **my.klocwork**
へのアクセス 限を持っているのは 1 人か 2 人のユーザーだけです。
アクセス 限を持っていない場合、**Klocwork** カスタマーサポート ^[1] まで連絡してください。
ライセンスが必要です。 まだ持っていない場合は、ライセンスの取得を参照してください。

2つのバージョンの Klocwork サーバーの実行

たとえば既存のサーバーへのアクセスを 続しながら **Klocwork Insight 9.6** サーバーをテストするなど、2
セットの **Klocwork** サーバーを実行する場合は、別々の **projects_root** ディレクトリでそれらを実行する
(そして、ポートを適切に設定する) 必要があります。

必要なパーミッション

- インストールウィザードを使用するか自動インストールを実行するかにかかわらず、Windows
パッケージをすべてインストールするには、Administrator アクセス 限が必要です。
- **Klocwork** サーバーのインストール時には、Administrator アクセス 限が必要です。
- **Klocwork** サーバーを起動する (そして、**Klocwork** サーバーを Windows Services として実行する)
には、Administrator パーミッションが必要です。
- Windows Server 2008 の場合、ルートディレクトリに配置された **projects_root** にアクセスする **Klocwork**
ツールを起動するには、'管理者として実行' オプションを使用する必要があります。

Windows インストールウィザードによるインストール

Klocwork サーバーのインストールウィザードを、プロンプトに従って実行します。次の点に注意してください。

- インストールパッケージにより、オペレーティングシステムの 32 ビットと 64 ビットの別が自動的に 出され、該当するバージョンの Java がインストールされます。
- システムロケールが日本語の場合、デフォルトではインストールパッケージが日本語で実行されます。それ以外の場合は、英語で実行されます。
- インストール中に "[Klocwork サーバー構成]" 画面でサーバー情報を指定すると、デフォルトの設定をオーバーライドできます。ライセンスサーバーのデフォルトは localhost および 27000 です。Klocwork サーバーのデフォルトのポートは 8080 です。ポートの詳細については、Klocwork サーバー設定の表示と 更を参照してください。
- [セキュアなサーバー接続 (HTTPS) を使用する] チェックボックスの詳細については、Klocwork サーバーセキュア接続の使用を参照してください。
- プロジェクトルートディレクトリを作成する場所を求められます。これは、Klocwork サーバーとアプリケーションのデータの場所です。そこには Klocwork サーバーの設定と、統合プロジェクトやビルド解析実行に関する情報が含まれています。また、Klocwork ライセンスファイルも保管されています。デフォルトの場所は `<server_install>\projects_root` です。

注意: サーバーパッケージと projects_root を Program Files
 ディレクトリにインストールしないでください。 Windows 7 と Windows Server 2008
 のデフォルトのセキュリティ設定により、Program Files
 ディレクトリ内ファイルへの書き込みが制限されています。
- インストール時に、ローカルにインストールされたライセンスサーバーを使用する ([ローカル]) のか、それともリモートライセンスサーバーに接続する ([リモート]) のかを指定します。ローカルはデフォルトオプションであり、ライセンスファイルを参照することが必要です。[リモート] を選 した場合、ライセンスサーバーのホスト名とポート番号を指定する必要があります。
- インストール後自動的に、Klocwork サーバーを Windows Services として起動することもできます。このオプションは、サーバーパッケージインストールの [Klocwork サーバーをセットアップする] ダイアログで使用できます。このオプションを選 しない場合、インストール後に手動でサーバーを起動する必要があります。下のサーバーの起動を参照してください。

PATH 環境 数に関する注意

Windows では、次のように、Klocwork bin ディレクトリが自動的に PATH 環境 数に追加されます。

インストールパッケージ	更された環境 数	使用される値
サーバー	システムパス	<server_install>/bin
ユーザー	ユーザーパス	<user_install>/bin

Windows インストールのログファイル

Klocwork インストールパッケージの 1 つが Windows で起動される場合は常に、インストールログファイルはローカル設定の一時ディレクトリに保存されます。たとえば、Windows 7 ではインストールログファイルは `\Users\<user>\AppData\Local\Temp` に保存されます。

ログファイルの名前は、Klocwork<release_number>-<package>.log となります。たとえば、Klocwork 9.6

サーバーパッケージのインストールログファイルの名前は、Klocwork9.6-Server.log です。

インストール中に、Klocworkのルートインストールディレクトリに logs ディレクトリも作成されます。

たとえばサーバーインストールの場合、サーバーが最初に起動され、プロジェクトルートディレクトリが初期化される出力を保存します。

サーバーの起動

インストール時にサーバーをまだ起動してない場合は、Windows Services Administration または `kwservice start` を使用して今すぐに起動します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> start
```

ここで <projects_root> は、インストール時に指定したプロジェクトルートディレクトリです。

例

```
kwservice --projects-root C:\klocwork\projects_root start
```

次のステップ

統合ビルドを解析します。

詳細: C/C++ | C# | Java

Windows への自動インストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb> ここでは、Windows へのサーバーパッケージとユーザーパッケージの自動インストールについて 明します。

自動モードでのインストール

Klocwork Insight の自動インストールを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
start /WAIT <installer.exe> /w /S [/L<langid>] /v"/qn INSTALLDIR=<install_directory> <install_log> PROPERTY=VALUE PROPERTY1=VALUE1..."
```

ここで

- <installer.exe> は、使用するインストールパッケージの名前、たとえば kw-server-installer.9.6.0.0.windows.exe です。
- /w パラメーターにより、親プロセスがインストールプロセスを待機します。詳細については、InstallShield ヘルプライブラリ ^[1] を参照してください。

注意:	システム 数	%errorlevel%
は、インストールが正常に行われたかどうかのチェックに使用されます。		
- /L<langid> により、インストールパッケージのデフォルト言語を 更できます。デフォルトでは、システムロケールが日本語の場合、インストールパッケージが日本語で実行されます。それ以外の場合は、英語で実行されます。日本語を指定するには、/L1041 を使用します。
- /v は、後続パラメーターを MSI エンジンに直接渡します。 /v に続く文字列はすべて、引用符で む必要があります。
- /qn は、インストーラを自動モードで実行します。
- <install_directory> は、Klocwork Insight をインストールするディレクトリの パスです。デフォルトは、空き領域が最大のローカルドライブのルートディレクトリです。%LOCAL_DRIVE%\Klocwork\<package> で、<package> はサーバーまたはユーザーです。選 じたディレクトリが空でない場合は、インストールを続行できません。
- PROPERTY=VALUE は 自動インストールに使用できる PROPERTY=VALUE のペアのいずれかです。

注意: スペースを含む値を、エスケープ引用符 (\") で みます。

例

```
start /WAIT kw-server-installer.9.6.0.0.windows.exe /w /S /v"/qn INSTALLDIR="D:\Klocwork\Server 9.6\" C:\Klocwork\server.log"
```

特定のコンポーネントの自動モードでのインストール

1 つ以上の特定の Klocwork Insight コンポーネント (たとえば、Klocwork Desktop C/C++ Plug-in for Visual Studio または Klocwork Architect) を自動インストールでインストールするには、コマンドラインに ADDLOCAL=<component_arguments> を含めます。ここで、<component_arguments> は、次の表の 1 つまたは複数の引数です。複数の引数を含める場合は、カンマで区切る必要があります。

インストールするサーバーコンポーネント (機能)	入力する引数
データベースサーバー	DatabaseServer
ライセンスサーバー	LicenseServer
Klocwork サーバー	KlocworkServer
管理解析管理ツール	BuildTools

インストールするユーザーコンポーネント (機能)	入力する引数
Klocwork Architect	Architect
Klocwork コマンドラインツール (デベロッパー向け、Klocwork デスクトップ を含む)	CommandLineTools
Klocwork Desktop C/C++ Plug-in for Visual Studio .NET 2005	KC_VSNET2005
Klocwork Desktop C/C++ Plug-in for Visual Studio 2008	KC_VS2008
Klocwork Desktop C/C++ Plug-in for Visual Studio 2010	KC_VS2010
Klocwork Desktop Java または C/C++ Plug-in for Eclipse	Eclipse
Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA	KJ_IDEA

自動インストールに使用できる **PROPERTY=VALUE** のペア

サーバーパッケージ

PROPERTY=VALUE	明!
ADDLOCAL=<component_list>	特定のコンポーネントのみをインストールします。 このプロパティに使用できる値については、前のセクションの表を参照してください。
INSTALLDIR=<install_directory>	指定するディレクトリにインストールします。 デフォルト: 現在の作業ディレクトリ。 選 じたディレクトリが空でない場合は、インストールを続行できません。
PROJECTS_ROOT=<projects_root_directory>	指定するディレクトリの プロジェクトルートディレクトリを設定します。 デフォルトは <Server_install>/projects_root です。 完全パスを指定します。 重要: アップグレードしている場合、移行する 古い方の プロジェクトルートディレクトリを指定してください。
LICENSE_HOST=<host_name>	ライセンスサーバーのホスト名を指定します。 デフォルト: localhost
LICENSE_PORT=<port_number>	ライセンスサーバーのポート番号を指定します。 デフォルト: 27000
MYSQL_HOST=<host_name>	データベースサーバーのホスト名を指定します。 デフォルト: localhost
MYSQL_PORT=<port_number>	データベースサーバーのポート番号を指定します。 デフォルト: 3306
KWSERVER_HOST=<host_name>	Klocwork サーバーのホスト名を指定します。 デフォルト: localhost
KWSERVER_PORT=<port_number>	Klocwork サーバーのポート番号を指定します。 デフォルト: 8080
USE_SSL=1	セキュア Klocwork サーバー接続を使用する場合は、この値を 1 に設定します。デフォルト: 0

注意: サーバーインストーラも **ALLUSERS** プロパティをサポートします。 詳細については、MSDN
の記事 ^[2]を参照してください。

ユーザーパッケージ

名前	明!
ADDLOCAL=<component_arguments>	特定のコンポーネントのみをインストールします。 このプロパティに使用できる値については、前のセクションの表を参照してください。
CREATE_SHORTCUTS="\\"	デスクトップショートカットの作成を抑制します。 デフォルト:1(ショートカットを作成)
IDEAINSTALLDIR=<directory>	IntelliJ IDEA がインストールされるディレクトリ。
INSTALLDIR=<directory>	指定するディレクトリにインストールします。 デフォルト:現在の作業ディレクトリ。 選 じたディレクトリが空でない場合は、インストールを続行できません。
LICENSE_HOST=<host_name>	<host_name> で実行するライセンスサーバーを使用します。
LICENSE_PORT=<port_number>	<port_number> で実行するライセンスサーバーを使用します。
KWSERVER_HOST=<host_name>	<host_name> で実行する Klocwork サーバーを使用します。
KWSERVER_PORT=<port_number>	<port_number> で実行する Klocwork サーバーを使用します。
USE_SSL=1	セキュア Klocwork サーバー接続を使用する場合は、この値を 1 に設定します。デフォルト:0

[1] http://kb.flexerasoftware.com/doc/Helpnet/installshield12helplib/IHelpSetup_EXECmdLine.htm#wp1021859

[2] [http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa371865\(VS.85\).aspx](http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa371865(VS.85).aspx)

Unix への Klocwork サーバーパッケージのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>

お使いになる前に

アップグレードですか? 前バージョンからのアップグレードを参照してください。

ソフトウェアはどこで入手できますか?

パッケージは Klocwork サポート ^[1]からダウンロードします。 通常は、組織内で my.klocwork へのアクセス 限を持っているのは 1 人か 2 人のユーザーだけです。

アクセス 限を持っていない場合、Klocwork カスタマーサポート ^[1]まで連絡してください。

ライセンスが必要です。 まだ持っていない場合は、ライセンスの取得を参照してください。

2つのバージョンの Klocwork サーバーの実行

たとえば既存のサーバーへのアクセスを 続しながら Klocwork Insight 9.6 サーバーをテストするなど、2 セットの

Klocwork サーバーを実行する場合は、別々のプロジェクトルートディレクトリでそれらを実行する必要があります。

インストールに関する注意事項

- **Linux 限定:** 32ビット版 Java と 64ビット版 Java で独立したインストールパッケージがあります。 お使いのオペレーティングシステムに適したパッケージを選 ってください。
- ダウンロードした .sh ファイルが実行可能ファイルであることを確認します。 chmod コマンドを使用し、適切なパーミッションを設定します。
chmod 755 <kw-installer.sh>
- Klocwork のインストール時にパーミッションを制御するには、umask の値を 更します。
- Klocwork ソフトウェアはルートユーザー以外でインストールします。

- 組織で GCC を使用している場合、正しいバージョンのコンパイラが PATH にあることを確認してから、インストールプログラムを実行してください。GCC コンパイラを PATH に含めると、作成するプロジェクトすべての標準 GCC ライブラリと定義へのデフォルトリンクが自動的に作成されます。標準ライブラリと定義を除外することで、特定のプロジェクトまたはビルドのデフォルト値をだれでもオーバーライド組織で GCC を使用していない場合、インストールプログラム実行時に GCC を PATH に含めないでください。
- この製品をインストールするパスがユーザーがこの製品を呼び出すパスと同じであることを確認してください。たとえば、インストール環境へのローカルパスが /local/tools/klocwork でも、他のマシンにいるユーザーは NFS パス /opt/tools/klocwork を使用してこの製品を呼び出さなければなりません。したがって、ユーザーがこの製品を確実に呼び出せるようにするには、インストール時に /opt/tools/klocwork パスを使用します。
- **重要: MySQL の制限事項のため、プロジェクトルートディレクトリを NFS 上に配置しないでください。** このディレクトリは、MySQL が完全にはサポートしていない特殊ファイルロッキングを実装しています。 in the MySQL documentation ^[1]も参照してください。

インストールパッケージの実行

次のコマンドを実行します。

```
kw-server-installer-9.6.x.x.<platform>.sh [options] <install_directory> [component ...]
```

ここで

- <platform> は、solaris, linux または aix です。
- [<options>] は、サーバーパッケージ用のコマンドラインオプションに一覧表示されているオプションのいずれかです。
- <install_directory> は、Klocwork をインストールするディレクトリを指定します。プロジェクトルートディレクトリのサブディレクトリは指定しないでください。選 じたディレクトリが空でない場合は、インストールを続行できません。
- [<component ...>] は、サーバーコンポーネントの引数の任意の引数です。コンポーネントが複数個ある場合は、スペースで区切ります。1 つ以上のコンポーネントを指定しない場合、パッケージ全体がインストールされます。 --list オプションを使用すると、さまざまなコンポーネントの引数のリストを表示することもできます。返された出力にアスタリスクが表示される場合は、そのコンポーネントが既にインストールされていることを示しま

例: Linux へのデータベースサーバーコンポーネントのみのインストール

```
kw-server-installer-9.6.0.0.linux.sh -p /space/projects_root /opt/klocwork DatabaseServer
```

ここで

- /space/projects_root は、projects_root の場所を指定します。デフォルトは <Server_install>/projects_root です。詳細については、プロジェクトルートディレクトリについてを参照してください。
- /opt/klocwork は、データベースサーバーをインストールするディレクトリを指定します。
- DatabaseServer はインストール 象がデータベースサーバーコンポーネントだけであることを示します。

サーバーパッケージ用のコマンドラインオプション

名前	短い名前	明!
--agree	-a	ライセンス契約を表示しないでライセンス条項に同意します。
--database-port <port_number>		データベースサーバーの実行に使用するポート番号を指定します。 デフォルト: 3306. このオプションは、kwservice でポート番号を指定することと等価です。
--debug		デバッグ情報を表示します
--force	-f	整合性チェックを行わないでインストールします
--help	-h	このヘルプを表示して終了します
--klocwork-port <port_number>		Klocwork サーバーの実行に使用するポート番号を指定します。 デフォルト: 8080. このオプションは、kwservice でポート番号を指定することと等価です。
--license-port <port_number>		ライセンスサーバーがローカルに実行されても、非デフォルトのポートで実行されることを指定します。 デフォルト: 27000. このオプションは、kwservice でポート番号を指定することと等価です。
--license-server <host>[:<port>]		リモートライセンスサーバーホストを指定します。 ホスト引数は必須ですが、ポート引数はオプションです。 デフォルト: localhost:27000. このオプションは、kwservice でホストとポートを指定することと等価です。 組織の FLEXlm サーバーの使用も参照してください。
--list	-l	使用できる機能 (コンポーネント) を列 します。
--projects-root <directory>	-p	非デフォルトプロジェクトルートディレクトリへの完全パスを指定します。 デフォルト: <install_directory>/projects_root. 指定するディレクトリは、次の条件のうちいずれかを たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • まだ存在しません。 • 空です。 • 以前に作成された有効なプロジェクトルートディレクトリです。 指定 みのルート Klocwork インストールディレクトリと同じディレクトリを指定しないでください。 Klocwork をプロジェクトルートディレクトリのサブディレクトリにインストールしないでください。 重要: アップグレードしている場合、移行する 古い方の プロジェクトルートディレクトリを指定してください。
--use-ssl		Klocwork サーバーセキュア接続 (HTTPS) の使用
--version	-v	Klocwork ソフトウェアのバージョンを表示し、終了します。

サーバーコンポーネントの引数

インストールするサーバーコンポーネント (機能)	入力する引数
データベースサーバー	DatabaseServer
ライセンスサーバー	LicenseServer
Klocwork サーバー	KlocworkServer
管理解析管理ツール	BuildTools

PATH への Klocwork の追加

Unix では、PATH に `<Klocwork_install>/bin` を追加することをお勧めします。そうしない場合は、コマンドを `<Klocwork_install>/bin` から実行する必要があります。

ライセンスファイルのコピー

ライセンスファイルを次の場所にコピーします。

```
<projects_root>/licenses
```

ライセンスファイルには 張子 `.lic` が必要です。

注意:

組織のライセンスサーバーの使用など、ライセンスオプションについては、ライセンスのカスタマイズを参照してください。

サーバーの起動

`kwservice start` コマンドでサーバーを起動します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> start
```

ここで `<projects_root>` は、インストール時に指定したプロジェクトルートディレクトリです。

例

```
kwservice --projects-root /space/klocwork/projects_root start
```

サーバーが起動したことを示すメッセージが、サーバーのホスト名およびポート番号、および `projects_root` のパスとともに表示されます。たとえば、次のようになります。

```
プロジェクトルートの使用: /space/klocwork/projects_root
ローカルホストは次のとおりです: serverxyz.com [13.1.1.142]
ライセンスサーバーを起動しています [serverxyz.com:27000]
で起動しました (プロジェクトルートは /space/klocwork/projects_root です)
データベースサーバーを起動しています [serverxyz.com:3306]
で起動しました (プロジェクトルートは /space/klocwork/projects_root です)
Klocwork          サーバーを起動しています [serverxyz.com:8080]
で起動しました (プロジェクトルートは /space/klocwork/projects_root です)
```

次のステップ

統合ビルドを解析します。

詳細: [C/C++ | C# | Java](#)

Mac への Klocwork サーバーパッケージのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>

このページでは、インストーラを使用して

Klocwork

サーバーパッケージをインストールする手順について 明します。

お使いになる前に

アップグレードですか? 前バージョンからのアップグレードを参照してください。

ソフトウェアはどこで入手できますか?

パッケージは **Klocwork サポート** ^[1] からダウンロードします。 通常は、組織内で **my.klocwork**

へのアクセス 限を持っているのは **1** 人か **2** 人のユーザーだけです。

アクセス 限を持っていない場合、**Klocwork** カスタマーサポート ^[1] まで連絡してください。

ライセンスが必要です。 まだ持っていない場合は、ライセンスの取得を参照してください。

前提条件

- **JVM バージョン:** マシンに **JVM 1.6 Update 38** かそれ以降をインストールしてから、**Klocwork** サーバーまたは **Klocwork** ユーザーパッケージをインストールする必要があります。
以前のバージョンの **JVM** がインストールされている状態で **Klocwork** サーバーまたは **Klocwork** ユーザーパッケージのインストールを試みると、"Version of Java is too old" というエラーメッセージが表示されます。 **Apple** は独自バージョンの **Java** を提供しています。 **Mac** でソフトウェア更新機能を使用してください。
- **アクセスレベル:** **Mac** パッケージのインストール時には、**Administrator** アクセス 限が必要です。
- **組織で GCC を使用している場合、正しいバージョンのコンパイラが PATH** にあることを確認してから、インストールプログラムを実行してください。 **GCC** コンパイラを **PATH** に含めると、作成するプロジェクトすべての標準 **GCC** ライブラリと定義へのデフォルトリンクが自動的に作成されます。
標準ライブラリと定義を除外することで、特定のプロジェクトまたはビルドのデフォルト値をだれでもオーバーライ
組織で **GCC** を使用していない場合、インストールプログラム実行時に **GCC** を **PATH** に含めないでください。

デフォルトの設定およびインストールディレクトリ

- **Klocwork** サーバーおよびユーザーパッケージは、**/Applications/** および **/Library/Frameworks/** ディレクトリにインストールされます。
 - **/usr/local/kw/** にあるシンボリックリンクを使用して、コマンドラインツールにアクセスします。
 - プロジェクトルートディレクトリを指定すると、デフォルトで **/Users/Shared/Klocwork/ProjectsRoot/** にインストールされます。
 - **Klocwork** サーバーは、**localhost** に設定され、デフォルトのポートで実行されます。
- サーバー設定をオーバーライドし、インストール中に **projects_root** が作成される場所を指定できます。

注意:

Klocwork

サーバーおよびユーザーパッケージのすべてのコンポーネントがインストールされます。

インストールするコンポーネントを指定することはできません。

インストールパッケージの実行

Klocwork

サーバーのインストールパッケージをデスクトップにコピーし、プロンプトに従って実行します。次の点に注意してください。

- "[サーバー設定]" 画面で次のことが調整できます。
 - プロジェクトルートディレクトリの場所
 - Klocwork およびデータベースサーバーのポート
- インストール時に、ローカルにインストールされたライセンスサーバーを使用する ([ローカル]) のか、それともリモートライセンスサーバーに接続する ([リモート]) のかを指定します。ローカルはデフォルトオプションであり、ライセンスファイルを参照することが必要です。[リモート] を選 じた場合、ライセンスサーバーのホスト名とポート番号を指定する必要があります。

トラブルシューティング

コンソール **([Applications] > [Utilities])** または `var/log/install.log` から、インストールログをチェックします。

サーバーの起動

`kwservice start` コマンドでサーバーを起動します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> start
```

ここで `<projects_root>` は、インストール時に指定したプロジェクトルートディレクトリです。

例

```
kwservice --projects-root /space/klocwork/projects_root start
```

サーバーが起動したことを示すメッセージが、サーバーのホスト名およびポート番号、および `projects_root` のパスとともに表示されます。たとえば、次のようになります。

```
プロジェクトルートの使用: /space/klocwork/projects_root
ローカルホストは次のとおりです: serverxyz.com [13.1.1.142]
ライセンスサーバーを起動しています [serverxyz.com:27000]
で起動しました (プロジェクトルートは /space/klocwork/projects_root です)
データベースサーバーを起動しています [serverxyz.com:3306]
で起動しました (プロジェクトルートは /space/klocwork/projects_root です)
Klocwork サーバーを起動しています [serverxyz.com:8080]
で起動しました (プロジェクトルートは /space/klocwork/projects_root です)
```

次のステップ

統合ビルドを解析します。

詳細: C/C++ | C# | Java

kwupdate

<yambe:breadcrumb self="kwupdate">Command_Reference</yambe:breadcrumb>The kwupdate command for Unix インストール みコンポーネントを列 し、パッチをインストール/アンインストールします。

注意:特定のコンポーネントをインストールパッケージとともにインストールしなかった場合、そのコンポーネントを後

kwupdate でインストールすることはできません。Klocwork

ツールの別のコンポーネントをインストールするには、該当するサーバーまたはユーザーインストールパッケージを再

概要

インストール みパッチを列 します。

```
kwupdate [<options>] --list-updates
```

インストール みコンポーネントを列 します。

```
kwupdate [<options>] --list
```

以前にアンインストールされたパッチをインストールします。

通常は、パッチをインストールするには、自己解凍型パッチインストーラースクリプトを実行します。たとえば、RP9.5
です。以前にアンインストールされたパッチをインストールするには、次のコマンドを実行するだけです。

```
kwupdate [<options>] --install --sequence <patch_number> ALL
```

ここで

- <オプション> は、次の表に示した任意のオプションです。
- <patch_number> は、再インストールするパッチの番号です。
- ALL はパッチをインストール みコンポーネントすべてに適用することを意味します。

例

```
kwupdate --install --sequence 11269 ALL
```

パッチをアンインストールします。

```
kwupdate [<options>] --uninstall --sequence <patch_number> ALL
```

ここで

- <オプション> は、次の表に示した任意のオプションです。
- <patch_number> は、アンインストールするパッチの番号です。
- ALL
はパッチをインストール みコンポーネントすべてからアンインストールすることを意味します。

例

```
kwupdate --uninstall --sequence 11269 ALL
```

オプション

名前	短い名前	明
--config <ファイル>	-C	この構成ファイルを使用します (デフォルトは KW-HOME/etc/kwupdate.conf)。
--define <name>=<value>	-D	指定値を持つ 数を定義します。一部のパッケージでは、数を使用して重要な情報を追跡します。たとえば、IntelliJ IDEA プラグインでは "idea.home" 数が IntelliJ IDEA ホームディレクトリに送られることが必要です。
--help	-h	このヘルプを表示して終了します
--idea-dir <dir>		IntelliJ IDEA ホームディレクトリ --define idea.home=<dir> と等価です。
--install	-i	以前にアンインストールされたパッチをインストールします。--sequence でパッチ番号を指定します。
--list	-l	インストール みコンポーネントを列 します。
--list-updates		インストール み更新を列 します。
--no-saved-variables	-N	記憶した 数値を使用および更新しません。通常は、数を設定すると、その値は kwupdate データベースに保存されます。したがって、同じ 数を再度タイプ入力する必要はありません。このオプションは、保存 み 数値を無視し、新しい 数値で kwupdate 内部データベースを更新しないように kwupdate に指示します。
--quiet	-q	できるだけ表示しない (エラーと警告のみ)
--sequence <num>	-n	更新シーケンス番号を指定します (--install、--uninstall と併用)。パッチ番号が複数個ある場合は、スペースで区切ります。
--uninstall	-u	インストール みパッチを削除します。--sequence でパッチ番号を指定します。
--version	-v	バージョンを表示して終了します

ユーザーパッケージのインストール

Windows への Klocwork

ユーザーパッケージのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>

この記事では、インストールウィザードの使用の手順について 明します。

自動インストールについては、Windows への自動インストールを参照してください。

お使いになる前に

- インストールパッケージにより、以前のバージョンのユーザーパッケージがインストールされているかどうかが出されることがあります。
- デフォルトでは、Klocwork ユーザーパッケージでは、1 台のマシンのすべてのユーザーについてインストールされます。
- 1 台のマシンにインストールできる Klocwork ユーザーパッケージは (バージョンにかかわらず) 1 つのみです。
ユーザーパッケージを再度実行する場合、インストールウィザードにより、前のインストールを削除または 更する場合があります。
- インストール中に "[Klocwork サーバー構成]" 画面で Klocwork サーバー情報を指定すると、デフォルトの設定をオーバーライドできます。
ライセンスサーバーのデフォルトは localhost および 27000 です。Klocwork サーバーのデフォルトのポートは 8080 です。
- Klocwork ユーザーパッケージのインストール時には、管理者アクセス が必要です。
インストールに関する制限については、リリースノートを参照してください。

インストールウィザードの実行

Windows の Klocwork ユーザーパッケージの名前は、kw-user-installer.9.6.x.x.windows.exe です。
コンポーネントの詳細については、Klocwork パッケージとコンポーネントについてを参照してください。

- システムロケールが日本語の場合、デフォルトではインストールパッケージが日本語で実行されます。
それ以外の場合は、英語で実行されます。
 - インストールパッケージにより、オペレーティングシステムの 32 ビットと 64 ビットの別が自動的に 出され、該当するバージョンの Java がインストールされます。
 - "[宛先ディレクトリ]" 画面:
デフォルトの宛先ディレクトリは、空き領域が最大のローカルドライブです。
たとえば、次のようになります。
D:\Klocwork\User 9.6\
 - "[現在の宛先ディレクトリの 更]" 画面: 重要: パッケージを Windows Vista、Windows Server 2008、および Windows 7 マシンの Program Files ディレクトリにインストールすることは避けてください。Windows ユーザーアクセス制御 (UAC) により、Program Files ディレクトリへの書き込みが制限されています。
 - "[Klocwork サーバー構成]" 画面: Klocwork 管理者により提供された Klocwork サーバー情報を指定します。 Klocwork
-

サーバーへのセキュア接続が設定されている場合は、[セキュアなサーバー接続 (HTTPS) を使用する] を選 びます。

トラブルシューティング

- IntelliJ IDEA プラグインのインストールでトラブルが発生した場合は、IntelliJ IDEA インストールが 出されませんでした。プラグインがインストールされていませんを参照してください。
- メインのトラブルシューティングページも参照してください。

次は何?

- Eclipse ユーザーは、Eclipse 更新サイトからの Klocwork プラグインのインストールが必要です。
- Klocwork Desktop Analysis を使用したチェックイン前の指摘の修正に進み、開発環境を選 びてください。

Unix への Klocwork ユーザーパッケージのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>

お使いになる前に

- 新バージョンの Klocwork ユーザーパッケージをインストールする前に、以前のバージョンをアンインストールしてください。
- システム要件を確認します。
- Klocwork Insight のインストール時にパーミッションを制御するには、umask の値を 更 えます。
- 既存インストールのパーミッションを 更えるには、chmod を使用します。
- Klocwork ソフトウェアはルートユーザー以外でインストールします。
- **Linux 限定:** 32 ビット版 Java と 64 ビット版 Java で独立したインストールパッケージがあります。お使いのオペレーティングシステムに適したパッケージを選 びてください。

Unix への Klocwork ユーザーのインストール

次のコマンドを実行します。

```
kw-user-installer-9.6.x.x.<platform>.sh [options] <install_directory> [component ...]
```

ここで

- <platform> は、solaris または linux または linux64 (64 ビット Linux を使用している場合) です。
- [<options>] は、Unix のユーザーパッケージ用のコマンドラインオプションに一覧表示されているオプションのいずれかです。
注意: Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA をインストールする場合は、--idea-dir オプションを使用する必要があります。i
- <install_directory> は、Klocwork Insight をインストールするディレクトリを指定します。選 びたディレクトリが空でない場合は、インストールを続行できません。
- [component ...] は、Unix のユーザーコンポーネントの引数の任意の引数です。コンポーネントが複数個ある場合は、スペースで区切ります。 1

つ以上のコンポーネントを指定しない場合、パッケージ全体がインストールされます。 `--list` オプションを使用すると、さまざまなコンポーネントの引数のリストを表示することもできます。返された出力にアスタリスクが表示される場合は、そのコンポーネントが既にインストールされていることを示しま

例 1: Solaris への Klocwork ユーザーパッケージ全体のインストール

```
kw-user-installer-9.6.1.1.solaris.sh -a /home/jlee/klocwork
```

ここで

- `-a` は、Klocwork のライセンス条項に同意することを示します。
- `/home/jlee/klocwork` は、Klocwork Insight がインストールされる場所を指定します。

例 2: Linux へのコマンドラインツールコンポーネントのインストール

```
kw-user-installer.9.6.1.1.linux64.sh -a /home/jlee/klocwork CommandLineTools
```

上述の例の 明は次のとおりです。

- `-a` は、ライセンス契約を表示しないでライセンスに同意することを示します。
- `/home/jlee/klocwork` は、Klocwork Insight がインストールされる場所を指定します。
- `CommandLineTools`
引数は、ユーザーパッケージからコマンドライン機能のみをインストールすることを示します。

ヒント: Unix の適切なインストーラコマンドラインオプションを使用すると、インストール中に Klocwork サーバーを指定する (サーバープロジェクトに接続する場合) ことも、ライセンスサーバーを指定する (スタンドアロンプロジェクトの場合) こともできます。

例 3: Linux への Klocwork Desktop Plug-in for Eclipse のインストール

```
kw-user-installer-9.6.1.1.linux64.sh -a /home/jlee/ ECLIPSE
```

ここで

- `-a` は、Klocwork のライセンス条項に同意することを示します。
- `/home/jlee/Klocwork` は、Klocwork Insight がインストールされる場所を指定します。
- `ECLIPSE` はインストール 象が Eclipse 向け Klocwork だけであることを示します。

例 4: Linux への Klocwork Desktop Plug-in for IntelliJ IDEA のインストール

```
kw-user-installer-9.6.1.1.linux64.sh -a --idea-dir "/home/jlee/JetBrains/IntelliJ IDEA 9.0" "/opt/klocwork/user 9.6" KJ_IDEA
```

ここで

- `-a` は、Klocwork のライセンス条項に同意することを示します。
- `"/home/jlee/JetBrains/IntelliJ IDEA 9.0"` は、IntelliJ IDEA がインストールされるマシン上の場所を指定します。
- `"/opt/klocwork/user 9.6"` は、Klocwork ユーザー インストールディレクトリのパスです。
- `KJ_IDEA` はインストール 象が Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA だけであることを示します。

Unix のユーザー用のコマンドラインオプション

名前	短い名前	明!
--agree	-a	ライセンス契約を表示しないでライセンス条項に同意します。
--force	-f	整合性チェックを行わないでインストールします。
--help	-h	このヘルプを表示して終了します。
--idea-dir		IntelliJ IDEA がインストールされるディレクトリを指定します (Klocwork Insight Java Plug-in for IntelliJ IDEA をインストールする場合にのみ該当)。
--klocwork-server <host>[:<port>]		Klocwork サーバーのホスト名とポート番号を指定します。 デフォルト: localhost:8080
--license-server <host>[:<port>]		ライセンスサーバーのホスト名とポート番号を指定します。 デフォルト: localhost:27000
--list	-l	使用できる機能 (コンポーネント) を列 します。
--use-ssl		Klocwork サーバーセキュア接続を使用します。
--version	-v	Klocwork ソフトウェアのバージョンを表示し、終了します。

Unix のユーザーコンポーネントの引数

インストールするユーザーコンポーネント (機能)	入力する引数
Klocwork Architect	Architect
Klocwork コマンドラインツール (デベロッパー向け)	CommandLineTools
Eclipse ユーザー向け	ECLIPSE
IntelliJ IDEA での Java 向け Klocwork (Linux のみ)	KJ_IDEA

PATH への bin ディレクトリの追加

PATH 環境 数に <user_install>/bin ディレクトリを追加することをお勧めします。
 このドキュメンテーションの手順は、PATH に bin
 ディレクトリを既に追加したことを前提としています。

トラブルシューティング

- パッチをインストールした後で Visual Studio でパッケージロードエラーが発生する
- IntelliJ IDEA インストールが 出されませんでした。プラグインがインストールされていません
- インストール中のセットアップ初期化ファイルの読み取りエラー

次は何?

- Eclipse ユーザーは、Eclipse 更新サイトからの Klocwork プラグインのインストールが必要です。
- Klocwork Desktop Analysis
 を使用したチェックイン前の指摘の修正に進み、開発環境を選 してください。

Mac への Klocwork ユーザーパッケージのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>

お使いになる前に

通常は、Klocwork

administrator

が一元管理されたツールディレクトリでデベロッパーがユーザーパッケージを使用できるようにします。パッケージが

新バージョンの

Klocwork

ユーザーパッケージをインストールする前に、以前のバージョンをアンインストールしてください。

前提条件

- **JVM バージョン:**マシンに JVM 1.6 Update 38 かそれ以降をインストールしてから、Klocwork サーバーまたは Klocwork ユーザーパッケージをインストールする必要があります。以前のバージョンの JVM がインストールされている状態で Klocwork サーバーまたは Klocwork ユーザーパッケージのインストールを試みると、"Version of Java is too old" というエラーメッセージが表示されます。Apple は独自バージョンの Java を提供しています。Mac でソフトウェア更新機能を使用してください。
- **アクセスレベル:**Mac パッケージのインストール時には、Administrator アクセス 限が必要です。

インストーラ GUI の使用

インストールするには、インストールパッケージをデスクトップにコピーし、プロンプトに従って実行します。次の点

- ユーザーパッケージは次の以下のディレクトリにインストールされます。
 - /Applications/Klocwork User 9.6/
 - /Library/Frameworks/KlocworkUser.framework/Versions/9.6/
- ユーザーパッケージのすべてのアプリケーションがインストールされます。カスタムインストールは実行できません
- /usr/local/kw/
にあるシンボリックリンクを使用して、コマンドラインツールにアクセスします。

次は何?

- Eclipse ユーザーの場合は、Eclipse 更新サイトからの Klocwork プラグインのインストールを実行します。
- IntelliJ IDEA ユーザーの場合は、Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA をお使いになる前にを参照してください。
- Klocwork プラグインでサポートされない IDE またはエディターを使用している場合は、kwcheck for Java をお使いになる前にを参照してください。

Eclipse 更新サイトからの Klocwork プラグインのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightInstallation</yambe:breadcrumb>Klocwork Plug-in for Eclipse を Klocwork ユーザーパッケージからインストールした場合、さらに Eclipse 更新サイトをインストールし、Klocwork インストールディレクトリのパスを Eclipse で指定する必要があります。

Eclipse での更新サイトのインストール

使用している Eclipse のバージョンに基づき、次の手順に従います。

Eclipse 3.4	Eclipse 3.5、3.6、3.7、および 4.2
1. Eclipse で、ヘルプ > ソフトウェアの更新にアクセスします。 2. 利用可能なソフトウェア タブをクリックします。 3. サイトの追加 をクリックし、アーカイブ をクリックします。	1. Eclipse で、ヘルプ > 新しいソフトウェアのインストールにアクセスします。 2. 追加 をクリックします。 3. アーカイブ をクリックします。

Wind River Workbench: 高度なデバイス開発 パースペクティブ (右上に近いボタン) を選 して、ヘルプ > ソフトウェアの更新 にアクセスします。

4. <user_install>/update-site/kw-eclipse-update-site.zip に移動します。

ヒント: Mac の場合、Klocwork は /Library/Frameworks/KlocworkUser.framework/Versions/9.6/ にインストールされます。

5. **Open** をクリックします。

6. **OK** をクリックします。

索 象サイトのリストに、更新サイトが追加されます。

次に、更新サイトをインストールします。

Eclipse 3.4	Eclipse 3.5、3.6、3.7、および 4.2
1. インストール をクリックします。 2. 終了 をクリックします。 3. Eclipse を再起動するようにプロンプトが表示されたら、はい をクリックします。	1. C/C++ および Klocwork for Java をインストールする場合は、静的解析ツールにチェックを追加します。 そうでない場合は、静的解析ツールを展開し、目的の言語にチェックを追加します。 次に、次へ をクリックします。 注意: インストール み開発ツールの言語を反映するプラグインをインストールします。たとえば、JDTのみを使用している場合、Klocwork for Javaのみをインストールします。 2. インストールの詳細で、完了 をクリックします。 3. Eclipse を再起動するようにプロンプトが表示されたら、はい をクリックします。

ユーザーインストールディレクトリのパスの指定

1. ウィンドウ > プリファレンス に移動します。
2. **Klocwork** を展開し、設定 をクリックします。
3. *Klocwork* インストールへのパス の横にある 参照 ボタンをクリックし、**Klocwork** ユーザーインストールディレクトリを参照します。たとえば、次のようになります。

D:\Klocwork\User 9.6

ヒント: **Mac** の場合、**Klocwork** は
/Library/Frameworks/KlocworkUser.framework/Versions/9.6/
にインストールされます。

4. **OK** をクリックします。

次は何?

Klocwork Desktop Analysis をお使いになる前に、次のいずれかにアクセスします。

- Klocwork Desktop C/C++ Plug-in for Eclipse をお使いになる前に
- Klocwork Desktop Java Plug-in for Eclipse をお使いになる前に

新規またはアップグレード版 **IDE** 向けカスタムインストールの実行

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>Klocwork Insight のインストール後に
IDE

にアップグレードした場合、前のバージョンのプラグインのアンインストールが必要です。アンインストールの詳細に
Insight のアンインストールを参照してください。

アンインストール後に次のいずれかを実行します。

- **Klocwork**
ユーザーインストーラを再実行し、必要なプラグインバージョンを選 してインストールします
(たとえば、Visual Studio 2005 から 2010 に移行した場合)
- <user_install>/update-site ディレクトリから更新サイトをインストールし、新バージョンの
Eclipse でインストールディレクトリのパスを設定します。

Klocwork Desktop コマンドラインまたは **Klocwork Desktop**
を使用している場合は、これ以上行うことはありません。

アップグレードステップは、以下のように、IDE プラグインにより提供されます。

Visual Studio

Klocwork ユーザーパッケージインストーラを Windows で再実行します。マシン上の Visual Studio のインストールのみバージョンが、インストーラにより自動出されます。

インストールしない機能の選を解除します。

Eclipse

アップグレードする Eclipse のバージョンにかかわらず、以下のことが必要です。

1. Eclipse 更新サイトからの Klocwork プラグインのインストール。
2. ユーザーインストールディレクトリのパスの指定。

IntelliJ IDEA

IntelliJ

IDEA

のアップグレードバージョンを同じディレクトリにインストールした場合は、これ以上行うことはありません。

別の場所に IDEA をインストールした場合は、次のようにします。

- **Windows:**

Windows インストーラを再実行し、マシンにインストールしない機能の選を解除します。

インストール中、Klocwork Insight によって IntelliJ IDEA ディレクトリが自動出され、その場所にプラグインディレクトリがインストールされます。複数の IDEA インストールディレクトリが出された場合は、参照して希望する場所を指定します。

- **Linux:**

次のコマンドを実行します。

```
<kw-user-installer> --idea-dir <intellij_install_location> <user_install> KJ_IDEA
```

ここで

- <kw-user-installer> は Klocwork インストール実行可能ファイルの名前です。
- <intellij_install_location> は、IntelliJ IDEA がインストールされるシステム上の場所を指定します。
- <user_install> は、Klocwork をインストールするディレクトリです。選したディレクトリが空でない場合は、インストールを続行できません
- KJ_IDEA はインストール象が IntelliJ IDEA プラグインであることを指定します。

例:

```
kw-user-installer.9.x.x.x.linux.sh --idea-dir jlee/JetBrains/IntelliJIDEA /home/jlee/Klocwork KJ_IDEA
```

分散解析パッケージのインストール

分散解析パッケージのインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb> 分散解析コンポーネントは、個別の Klocwork インストールパッケージとして使用できます (たとえば、Linux の場合、パッケージは kw-dist-build-installer.9.x.x.xx.linux.sh です)。

Unix へのインストール

Klocwork の完全な分散解析パッケージを Unix にインストールするには:

1. お使いのオペレーティングシステムに合った Klocwork 分散解析インストールパッケージを一時ディレクトリにダウンロードします。
2. ダウンロードした .sh ファイルが実行可能ファイルであることを確認します。chmod コマンドを使用し、適切なパーミッションを設定します。次のように入力します。

```
chmod 755 <実行可能ファイル名>
```

注意:Klocwork ソフトウェアはルートユーザー以外でインストールします。

3. 実行可能ファイルを、適切なオプションおよび引数を指定して実行します。

```
<kw-dist-analysis-installer> -a -i <install_directory>
```

ここで

<kw-dist-analysis-installer> はインストール実行可能ファイルの名前です。

-a は、ライセンス契約を承諾することを示します。

<install_directory> は、分散解析パッケージをインストールする場所のパスです。

Windows へのインストール

Windows で、インストールウィザードを使用するか、自動インストールを実行します。

Klocwork 分散解析パッケージを Windows にインストールするには、インストールするマシンの管理者パーミッションが必要です。

注意:Klocwork ユーザーパッケージでは、1 台のマシンのすべてのユーザーについて自動的にインストールされます。

インストールウィザードによる **Klocwork** のインストール

Klocwork Insight の分散解析パッケージまたはコンポーネントをローカルマシンにインストールするには:

1. Windows 向けの Klocwork 分散解析パッケージを一時ディレクトリにダウンロードします。
2. インストール実行可能ファイルを実行します。

グラフィカルユーザーインターフェイスにより初期化および準備が実行されます。

ウィザードの [ようこそ] 画面が表示されます。

3. [次へ] をクリックします。

[使用許諾契約書] 画面が表示されます。

4. 使用許諾契約書を確認し、承諾する場合は、[使用許諾契約書に同意します] をクリックします。
5. [次へ] をクリックします。

[宛先ディレクトリ] 画面が表示されます。

デフォルトの宛先ディレクトリは、空き領域が最大のローカルドライブです。

たとえば、次のようになります。

D:\Klocwork\Distributed Analysis 9.6\

6. デフォルトのフォルダーを使用する場合は [次へ] を、別の場所に Klocwork をインストールする場合は [更...] をクリックします。

[更...] をクリックすると、[現在の目的のフォルダの 更] 画面が表示されます。Klocwork をインストールするフォルダーを参照します。

重要: パッケージを Windows Vista、Windows Server 2008、および Windows 7 マシンの Program Files ディレクトリにインストールすることは避けてください。Windows ユーザーアクセス制御 (UAC) により、Program Files ディレクトリへの書き込みが制限されています。

7. [OK] をクリックします。
8. [次へ] をクリックします。

[セットアップの種類] 画面が表示されます。

デフォルトでは、[完全] ボタンが選 されています。

9. Klocwork 分散解析パッケージ全体を 1 台のマシンに選 する場合は、[完全] ボタンを選 した状態のまま、ステップ 11 に進みます。

マシンにインストールするコンポーネントを選 する場合は、[カスタム]、[次へ] の順にクリックします。

[カスタムセットアップ] 画面が表示され、2つのオプションが示されます。

注意: Windows インストールウィザードでは、「機能」は「コンポーネント」を指します。

マシンにインストールしないコンポーネントがある場合は、そのコンポーネントのアイコンをクリックした後、[] をクリックします。無効に "しない"

コンポーネントはすべてインストールされます。インストール "しない"

コンポーネントに基づき、Klocwork Distributed Analysis Server または Klocwork 分散解析エージェントの選 を解除します。

重要:

選 した場所に十分なディスク領域があることを確認してください。システム要件を参照してください。象のマシン をクリックします。

10. [次へ] をクリックします。

[プログラムのインストール準備の完了] 画面が表示されます。

11. インストール設定をレビューまたは 更するには、[戻]

をクリックします。現在の設定でインストールを 続するには、[インストール] をクリックします。

Klocwork がインストールされている間、進行状況を示すバーが表示されます。

[セットアップ ウィザード完了] 画面が表示されます。

12. [終了] をクリックします。

Windows での自動インストールの実行

分散解析パッケージの自動インストールを Windows で実行するには、次のコマンドを入力します。

```
<kw-dist-build-installer> /S/v"/qn [ADDLOCAL=<component_code>] INSTALLDIR=<install_directory> /lv* <log_file>"
```

ここで

- <kw-dist-build-installer> は Windows 分散解析インストール実行可能ファイルの名前です。
- ADDLOCAL=<component_code>
はオプションであり、パッケージのサーバーコンポーネントまたはエージェントコンポーネントのみをインストール
- <component_code> は、DistributedAnalysisServer または DistributedAnalysisAgent
です。
- <install_directory> は、インストールするディレクトリのパスです。
- /lv* <log_file> では、インストールエラーをファイルに記述
(推定)。指定するディレクトリは既に存在していることが必要です。ログファイルのパスを使用します。

注意:スペースを含む値を、エスケープ引用符 (\) で囲みます。

例:

```
kw-dist-build-installer.9.5.0.0.windows.exe /S /v"/qn  
INSTALLDIR="C:\Klocwork\9.5.0.0\Distributed Analysis\  
<br/>/lvx* C:\Klocwork\dist_analysis.log"
```

Windows インストールのログファイル

Klocwork インストールパッケージの 1 つが Windows で開始される場合、インストールログファイルは %USERPROFILE%\Local Settings\Temp に保存されます。

ログファイルの名前は、Klocwork<release-number>-<package>.log

となります。たとえば、Klocwork

9.6

サーバーパッケージのインストールログファイルの名前は、Klocwork9.6-Server.log です。

Windows

へのインストール中に、Klocwork のルートインストールディレクトリにログディレクトリも作成されます。たとえばサーバーディレクトリが初期化されると、このディレクトリのログファイルは、kwservice 出力を保存します。

インストールに関するトラブルシューティングの必要がある場合は、これらのログを確認します。

次は何?

Klocwork をビルドと統合します。

Klocwork サーバーの設定と起動

Klocwork サーバー設定の表示と 更

<yambe:breadcrumb>サーバーとデータベースの管理</yambe:breadcrumb>注意: **Klocwork** サーバーが実行されている場合、サービスプロパティを 更する前にこれらを停止する必要があります。Klocwork サーバーの停止を参照してください。

サーバー設定の表示

Klocwork サーバーのホストとポートの設定を表示するには、コマンド `kwservice get-service-properties` を使用します (この場合、Klocwork ライセンスは使用されません)。

Klocwork サーバーのホスト名の設定

中央になる場所に **Klocwork** サーバーをインストールし、別のホストマシンから 1 つ以上のサーバーを実行する場合、これらのサーバーのホスト名を設定する必要があります。

重要な注意事項:

- サーバー構成コマンドを発行する場合、ログインしているマシンから `projects_root` を表示する必要があります。
- 以下の手順に従って 1 つ以上の **Klocwork** サーバーにさまざまなホストを指定した場合、以前にサーバーを起動したホストからはサーバーを起動できなくなります。
- **Klocwork** クライアントからさまざまなサブネットにサーバーホストが配置されている場合、以下の手順で **Klocwork** サーバーの完全修飾ホスト名を使用する必要があります。'そうしないと、クライアントはサーバーに接続できなくな
- ライセンスファイルで **Klocwork** ライセンスサーバーの物理ホスト名を 更することはできません。ライセンスサーバーを別のホストに移動する必要がに問い合わせ、新しいライセンスファイルを入手する必要があります。ただし、ライセンスサーバーをホストするマ (たとえば、単純なホスト名から完全修飾ホスト名に 更する) 場合、以下の手順を使用できます。ライセンスファイルのホスト名は、以下の手順で指定されたホスト名と一致する
- 冗長ライセンスサーバーを設定した場合は、マスターライセンスサーバーのホスト名を指定するようにしてください
- ホストマシンのホスト名または IP アドレスに影響するネットワーク 更の実行も参照してください。

いずれかの **Klocwork** サーバーのホスト名を設定するには:

1. サーバーが実行されている場合は、サーバーを停止します。**Klocwork** サーバーの停止を参照してください。
2. 次のコマンドを実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> set-service-property <server_name> host <host_name>
```

ここで

- <projects_root> は、使用する `projects_root` ディレクトリです。
- <server_name> は、次のいずれかです。
 - データベース

- ライセンス
- klocwork
- <host_name> は、指定されたサーバーをホストするマシンの名前です (完全修飾ホスト名を使用することをお勧めします。前述の "重要な注意事項" を参照してください)。

例:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root set-service-property database host server0196.acme.com
```

3. サーバーを起動します。Klocwork サーバーの起動を参照してください。

Klocwork サーバーで使用するポートの設定

次の表に、Klocwork サーバーを新しくインストールした場合のデフォルトのポート番号を示します。

デフォルトのポート番号

サーバー名	ポート
データベースサーバー	3306
ライセンスサーバー	27000 と 33133
Klocwork サーバー	8080 と 8081

重要:

- Klocwork の前バージョンから移行した場合、サーバーは古い `projects_root` に保存されているポートで実行されます。
- 各 Klocwork サーバーは専用のポートで実行される必要があります。その他のアプリケーションを同じポート番号を使用するよう
- Klocwork サーバーでは、2つの連続するポートが使用されます (ユーザーが選 じたポートと、その次のポート)。
- 各サーバーのデフォルトのポートは、そのサーバータイプの通常のポートです (たとえば、ポート 3306 は MySQL サーバーの通常のポートです)。デフォルトのポートで Klocwork サーバーを実行する場合、これらのポートでその他のサーバーが実行されていないことを確認します。
- 以下の手順でポート番号を設定する場合、`projects_root` ディレクトリはログインしたマシンから書き込み可能である必要があります。
- Klocwork サーバーがファイアウォールの背後で実行されている場合、クライアントがサーバーと通信できるようにファイア
- ライセンスサーバーがポート 33133 を使用できない場合は、ライセンスファイルのベンダーデーモンポートの 更の手順に従ってください。

Klocwork サーバーで使用するポートを設定するには:

1. サーバーが実行されている場合は、サーバーを停止します。Klocwork サーバーの停止を参照してください。
2. 次のコマンドを実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> set-service-property <server_name> port <port_number>
```

ここで

- <projects_root> は、使用する `projects_root` ディレクトリです (必須の引数)。
- <server_name> は、次のいずれかです。
 - データベース

- ライセンス
 - klocwork
- <port_number> は、指定した Klocwork サーバーで使用されるポートです (上記の表のデフォルト値)。
3. サーバーを再起動します。Klocwork サーバーの起動を参照してください。

例

Klocwork サーバーで使用するポートをポート 8074 に設定するには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork_Server\projects_root set-service-property klocwork port 8074
```

ホストマシンのホスト名または IP アドレスに影響するネットワーク 更の実行

サーバーの

IP

アドレスおよび完全修飾ホスト名に影響を与えるサーバーのネットワーク設定の一部を 更する必要がある場合は、以下 Klocwork アプリケーションが引き続き正常に機能していることを確認してください。

注意:これには、サーバーとクライアントを同じコンピューターにインストールしたときに、ネットワークから Windows コンピューターを切断する必要がある状況などが含まれます。

Klocwork

サーバーをホストするマシンのホスト名または

IP

アドレスに影響するネットワーク 更を実行するには:

1. Klocwork サーバーを停止します。Klocwork サーバーの停止を参照してください。
2. ネットワーク構成の 更を行います (またはコンピューターをネットワークから切断します)。
3. Klocwork ライセンスサーバーがマシンで実行されている場合は、Klocwork ライセンスファイルのバックアップコピーを作成し、ライセンスファイルを編集してホスト名と IP アドレスを新しいホスト名と IP アドレスに 更します。
4. Klocwork サーバーを再び起動します。Klocwork サーバーの起動を参照してください。
5. 更されたことを知る必要があるユーザーに 更を通知します (IT チーム、Klocwork 管理者、ビルドエンジニア、開発チームなど)。

Klocwork サーバーの起動

<yambe:breadcrumb>サーバーとデータベースの管理</yambe:breadcrumb>プロジェクト管理タスクを実行し、Klocwork Insight がデータとレポートにアクセスできるようにするには、Klocwork サーバーが実行されている必要があります。

Windows に関する注意:構成によっては、Windows Services として、または kwservice ユーティリティに制御された通常のプロセスとして、Klocwork サーバーを実行する場合があります。Klocwork サーバーを Windows Services の一環として実行している場合、kwservice または [スタート] メニューのショートカットではなく Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーの開始、停止、および確認を行う必要があります。

サーバーを起動するための要件

- Klocwork ライセンスのコピーを <projects_root>/licenses directory に配置する必要があります。
または
組織の FLEXlm ライセンスマネージャーを使用する場合は、インストール時に、または kwservice set-service-property コマンドを使用して、そのサーバーへのパスを設定する必要があります。Klocwork サーバーのホスト名の設定を参照してください。
- Unix で SSH を使用して、または Windows で Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーをリモートで管理できます。それ以外の場合は、start、restart、および stop コマンドをローカルに発行する必要があります。
- projects_root へのパスは、すべてのサーバーホストで同じでなければなりません。
- Klocwork 実行可能ファイルへのパスは、すべてのサーバーホストで同じでなければなりません。
- Klocwork サーバーを起動したユーザーは projects_root ディレクトリへの書き込みアクセス 限を持つ必要があります。

通常のプロセスとしてのサーバーの起動

すべての Klocwork サーバーを通常のプロセスとして起動するには、次のコマンドを実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> start
```

ここで <projects_root> は、使用する projects_root ディレクトリです。

いずれかの Klocwork サーバーを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> start [<server_name>]
```

ここで

- <server_name> は、次のいずれかです。
 - データベース
 - ライセンス
 - klocwork
- <projects_root> は、サーバーが実行されている projects_root です。

ヒント:Window の場合は、[スタート] > [すべてのプログラム] > [Klocwork 9.6] > [Klocwork サーバーの起動] をクリックして Klocwork サーバーを起動することもできます。

例

すべての Klocwork サーバーを起動するには:

```
kwservice --projects-root "C:\Klocwork\Server 9.6\projects_root" start
```

Klocwork サーバーを起動するには:

```
kwservice --projects-root "C:\Klocwork\Server 9.6\projects_root" start klocwork
```

サーバーが起動したことを示すメッセージが、サーバーのホスト名およびポート番号、および projects_root のパスとともに表示されます。たとえば、次のようになります。

```
プロジェクトルートの使用:C:\Klocwork\projects_root
ローカルホストは次のとおりです:serverxyz.com [13.1.1.142]
ライセンスサーバーを起動しています [serverxyz.com:27000] で開始されました
(プロジェクトルートは C:\Klocwork\Server 9.6\projects_root です)
データベースサーバーを起動しています [serverxyz.com:3306] で起動しました
(プロジェクトルートは C:\Klocwork\Server 9.6\projects_root です)
Klocwork サーバーを起動しています [serverxyz.com:8080]
```

で開始されました

Windows services としてのサーバーの起動

Windows

Services

が既に実行されている場合があります。インストール時、インストールが完了したら、Klocwork サーバーを Windows services として自動的に起動するオプションを選 できます。

注意:サーバーが Klocwork の同一バージョンの場合、Klocwork サーバーの 2 つのセットを Windows Services

として実行することはできません。詳細については、プロジェクトルートディレクトリの移動または追加作成を参照し

Windows Services として Klocwork サーバーを実行する場合、Klocwork サーバーはデータベースサーバーに依存します。つまり、

- Klocwork サーバーを起動または再起動すると、データベースサーバーも起動します。
- データベースサーバーを停止すると、Klocwork サーバーも停止します。

1 つ以上の Klocwork サーバーを Windows Services として起動または再起動するには、[コントロールパネル]の [Windows Services 管理]を使用します。または、次のコマンドを使用します。

```
net start "Klocwork 9.6 Database Server"
net start "Klocwork 9.6 License Server"
net start "Klocwork 9.6 Server"
```

次は何?

次に、統合プロジェクトを設定し、解析を実行します。統合ビルド解析を参照してください。

Klocwork サーバーの停止

<yambe:breadcrumb>サーバーとデータベースの管理</yambe:breadcrumb>**警告:**ユーザーのデータを損失しないように、**Klocwork**

アプリケーションを使用していないときにサーバーの停止をスケジュールしてください。サーバーを停止する予定であれば、サーバーを起動したら、**Klocwork**

クライアントアプリケーションからの情報の要求を処理するため、これらのサーバーを無期限に実行させたままにします。ソフトウェアのアップグレード、ライセンスファイルの置換、サーバー構成の変更などで、サーバーを停止する必要があります。**Klocwork** サーバーを停止する必要があります。

Windows に関する注意:**Klocwork** サーバーを **Windows Services** の一環として実行している場合 (デフォルトの設定)、**kwservice** または [スタート] メニューのショートカットではなく **Windows Services** 管理を使用して、**Klocwork** サーバーの開始、停止、および確認を行う必要があります。

サーバーを停止するための要件

- ホストマシンに直接ログインする必要があります。サーバーをリモートで停止することはできません。
- すべての **Klocwork** サーバーをシャットダウンする前に、**Klocwork** クライアントのユーザーはクライアントアプリケーションをシャットダウンすることをお勧めします。これを行わない **注意:**サーバーが停止したことを示すメッセージは実際、サーバーが停止中に発生されます。サーバーの再起動やバック

通常のプロセスとして実行されているサーバーの停止

通常のプロセスとして実行されているすべての **Klocwork** サーバーを停止するには、次のコマンドを実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> stop
```

ここで <projects_root> は、使用する **projects_root** ディレクトリです。
いずれかの **Klocwork** サーバーを停止するには、次のコマンドを実行します。

```
kwservice --projects-root <projects_root> stop <server_name>
```

ここで

- <server_name> は、次のいずれかです。
 - データベース
 - ライセンス
 - klocwork
- <projects_root> は、サーバーが実行されている **projects_root** です。

ヒント:Window の場合は、[スタート]>[すべてのプログラム]>[**Klocwork**]>[**Klocwork** サーバーの停止] をクリックして **Klocwork** サーバーを停止することもできます。

例

すべての **Klocwork** サーバーを停止するには:

```
kwservice --projects-root "C:\Klocwork\Server 9.6\projects_root" stop
```

1つの **Klocwork** サーバーを停止するには:

```
kwservice --projects-root "C:\Klocwork\Server 9.6\projects_root" stop klocwork
```

サーバーが停止されたことを示すメッセージが表示されます。たとえば、次のようになります。

```
プロジェクトルートの使用:C:\Klocwork\Server 9.6\projects_root
ローカルホストは次のとおりです:serverxyz.com [13.1.1.142]
Stopping License server [stopped]
Stopping Database server [stopped]
Stopping Klocwork server [stopped]
```

ヒント:Windows の場合、[スタート] メニューからサーバーを停止することもできます。[Klocwork] > [Klocwork サーバーの停止] をクリックします。

Windows Services として実行されているサーバーの停止

Windows Services として Klocwork サーバーを実行する場合、Klocwork サーバーはデータベースサーバーに依存します。つまり、

- Klocwork サーバーを起動または再起動すると、データベースサーバーも起動します。
- データベースサーバーを停止すると、Klocwork サーバーも停止します。

Windows Services として実行されている 1 つ以上の Klocwork サーバーを停止するには、[コントロールパネル]の [Windows Services 管理] を使用します。

または、次のコマンドを使用します。

```
net stop "Klocwork 9.6 Server"
net stop "Klocwork 9.6 Database Server"
net stop "Klocwork 9.6 License Server"
```

kwservice

<yambe:breadcrumb self="kwservice">Command_Reference</yambe:breadcrumb>kwservice Klocwork
サーバーを起動します。

Unix で SSH を使用して、または Windows で Windows Services Administration を使用して、Klocwork サーバーをリモートで管理できます。それ以外の場合は、start、restart、および stop コマンドをローカルに発行する必要があります。

残りの kwservice サブコマンドの場合、ログインしているマシンから projects_root ディレクトリを表示できる必要があります。

使用方法

```
kwservice [common-options] <サブコマンド> [options]
```

例

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork 9.6 Server\projects_root start license
```

共通オプション

名前 (および短い名前)	明!
--help	このヘルプを表示します。
--projects-root (-r)	サーバーが実行されている <code>projects_root</code> ディレクトリのパスすべての <code>kwservice</code> コマンドに必須です。
--verbose	プログラム実行についての詳細情報を表示します。これは、エラーのトラブルシューティングに役立ちます。
--version	バージョン情報を表示します

数の例

この記事の例では、次の 数を使用しています。

- `<server_name>` は、次のいずれかです。
 - データベース
 - ライセンス
 - `klocwork`
- `<projects_root>` は、サーバーが実行されている `projects_root` です。

kwservice check

`kwservice check` コマンドを使用して、すべての `Klocwork` サーバーまたは個々の `Klocwork` サーバーのステータスを確認します。

Windows に関する注意:`Klocwork` サーバーを `Windows Services` の一環として実行している場合 (デフォルトの設定)、`kwservice` または [スタート] メニューのショートカットではなく `Windows Services` 管理を使用して、`Klocwork` サーバーの開始、停止、および確認を行う必要があります。

使用方法

```
kwservice --projects-root <projects_root> check [<server_name>]
```

例

すべての `Klocwork` サーバーのステータスをチェックするには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root check
```

ライセンスサーバーのステータスをチェックするには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root check license
```

kwservice get-service-properties

`get-service-properties` コマンドを使用して、`Klocwork` サーバーのホスト名およびポート番号を表示します。

使用方法

```
kwservice --projects-root <projects_root> get-service-properties <server_name>
```

例

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root get-service-properties klocwork
```

kwservice list-services

このコマンドを使用して、Klocwork サーバーをリストします。

使用方法

```
kwservice --projects-root <projects_root> list-services
```

例

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root list-services
```

kwservice restart

このコマンドを使用して、すべてまたは個々の Klocwork
サーバーをワンステップで停止し、再起動します。

Klocwork

Windows に関する注意:Klocwork サーバーを Windows Services の一環として実行している場合 (デフォルト)、kwservice または [スタート] メニューのショートカットではなく Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーの開始、停止、および確認を行う必要があります。

注意:Unix で SSH を使用して、または Windows で Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーをリモートで管理できます。それ以外の場合は、start、restart、および stop コマンドをサーバーにローカルに発行する必要があります。

使用方法

```
kwservice --projects-root <projects_root> restart [<server_name>]
```

例

すべての Klocwork サーバーを再起動するには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root restart
```

ライセンスサーバーを再起動するには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root restart license
```

kwservice set-service-property

このコマンドを使用して、Klocwork サーバーのプロパティを設定します。

注意:このコマンドを実行する前に、関連するサーバーを停止する必要があります。kwservice stopを参照してください。

使用方法

```
kwservice --projects-root <projects_root> set-service-property <server_name> <property> <value>
```

- <プロパティ>は、次の表に示した任意のプロパティです

Property	明!	デフォルト値	以下のサーバーに適用
host	指定されたサーバーのホスト名	localhost	すべて
port	指定されたサーバーに使用されるポート番号	ライセンスサーバー: 27000 データベースサーバー: 3306 Klocwork サーバー: 8080	すべて

kwservice setup

このコマンドを使用して、追加の `projects_root` ディレクトリを設定および初期化します。

インストール時に 1 つの `projects_root` ディレクトリが自動的に作成されます。

`projects_root` ディレクトリは **Klocwork** サーバーとアプリケーションのデータの場所です。そこには **Klocwork**

サーバーの設定と、統合プロジェクトやビルド解析実行に関する情報が含まれています。また、**Klocwork** ライセンスファイルも保管されています。デフォルトの場所は

<サーバーインストール>/`projects_root` です。

追加の `projects_root` ディレクトリを作成する必要がある場合は、**Klocwork** カスタマーサポート [1] まで詳細をお問い合わせください。

使用方法

```
kwservice --projects-root <new_projects_root> setup [options]
```

ここで

- `<new_projects_root>` は作成する `projects_root` のパスです。このディレクトリの親ディレクトリは既に存在します。

重要: `projects_root` のパスの最大長は 68 ~ 72 文字で、データベースサーバー (mysql) のポート番号 (1 ~ 5 桁) の長さによって異なります。

例

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root_2 setup
```

オプション

名前	明!
<code>--license</code> <引数>	ライセンスファイルを指定します。このオプションを使用して、指定したライセンスファイルを新しい <code>projects_root</code> ディレクトリにコピーします。
<code>--old-pr</code> <引数>	既存の <code>projects_root</code> ディレクトリを指定します。このオプションを使用して、既存の <code>projects_root</code> からサーバー設定をコピーします。

kwservice start

このコマンドを使用して、すべてまたは個々の Klocwork サーバーを起動します。

Windows に関する注意:Klocwork サーバーを Windows Services の一環として実行している場合 (デフォルトの設定)、kwservice または [スタート] メニューのショートカットではなく Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーの開始、停止、および確認を行う必要があります。

注意:Unix で SSH を使用して、または Windows で Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーをリモートで管理できます。それ以外の場合は、start、restart、および stop コマンドをサーバーにローカルに発行する必要があります。

使用方法

```
kwservice --projects-root <projects_root> start [<server_name>]
```

例

すべての Klocwork サーバーを起動するには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root start
```

Klocwork サーバーを起動するには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root start klocwork
```

移行オプションに関する注意

--migrate オプションは、Klocwork Insight の以前のバージョンから projects_root を移行するために使用されます。アップグレードについては、前バージョンからのアップグレードを参照してください。

kwservice stop

このコマンドを使用して、すべてまたは個々の Klocwork サーバーを停止します。

Windows に関する注意:Klocwork サーバーを Windows Services の一環として実行している場合 (デフォルトの設定)、kwservice または [スタート] メニューのショートカットではなく Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーの開始、停止、および確認を行う必要があります。

注意:Unix で SSH を使用して、または Windows で Windows Services 管理を使用して、Klocwork サーバーをリモートで管理できます。それ以外の場合は、start、restart、および stop コマンドをサーバーにローカルに発行する必要があります。

使用方法

```
kwservice --projects-root <projects_root> stop [<server_name>]
```

例

すべての Klocwork サーバーを停止するには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root stop
```

Klocwork サーバーを停止するには:

```
kwservice --projects-root C:\Klocwork\projects_root stop klocwork
```

インストールのテスト

インストールのテスト

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_InsightlInstallation</yambe:breadcrumb>Klocwork
インストールをテストするには、Klocwork サンプルプロジェクトの
1
つを使用するか、独自のサンプルプロジェクトを作成して解析します。

Klocwork サンプルプロジェクトの 1つを使用する

<Klocwork_install>\samples には、2つのディレクトリがあります。

- csvtosql (Java のサンプルプロジェクト)
- Demosthenes (C/C++ のサンプルプロジェクト)

各ディレクトリには、サンプルプロジェクトおよび `readme` ファイルが含まれており、Klocwork
の調 またはデモンストレーションに使用するサンプル解析の設定方法が示されています。

注意: Unix 上でサンプルプロジェクトを正常にビルドするには、GNU `make`、GCC、および `bash`
が必要です。

サンプルプロジェクトを作成して解析する

サーバーパッケージのインストールをテストするために、サンプルプロジェクトを作成して解析し、解析の結果を
Klocwork Review で表示できます。

- C/C++ 統合ビルド解析 - チートシート
 - Java 統合ビルド解析 - チートシート
 - C# 統合ビルド解析 - チートシート
-

チームに伝達しなければならないこと

<yambe:breadcrumb>Klocwork

Insight

のインストール</yambe:breadcrumb>チームの開発者、マネージャー、ビルドエンジニア、および管理者は、次の

- インストールパッケージの場所 (開発者が独自の Klocwork ツールをインストールする場合)
- Klocwork サーバーの URL (マネージャーと開発者が Klocwork Review および Klocwork Inspect にアクセスできるようにするため)
- "/documentation" を追加した Klocwork サーバーの URL によって、すべての Klocwork オンラインドキュメンテーションを入手できること
- プロジェクトルートディレクトリの場所 (Klocwork 管理者のみ)
- ライセンスサーバーのホストとポート
- Klocwork サーバーを起動および停止するパーミッションを持つユーザーのユーザー ID、および Windows の場合はサーバーを Windows Services として管理する必要があるかどうか

バックアップなどのためにデータベース (Klocwork データベースサーバーまたは個別の MySQL データベースのどちらか)

にアクセスする必要があるユーザーが存在し、パスワードでデータベースをロックした場合、そのユーザーにパスワードデータベースのパスワードの設定を参照してください。

トラブルシューティング

Windows にインストールした Klocwork Insight の修復

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>Klocwork

インストールのファイルが誤って損傷したり削除されたりした場合は、インストールを修復できます。

たとえば **Klocwork** のアンインストールを行おうとしたときに "致命的エラー:アンインストールできません" というエラーメッセージが表示された場合、Klocwork のインストールが損傷したことがわかります。

このような場合、エラーメッセージダイアログで

OK

をクリックしてアンインストールをキャンセルし、以下の修復手順を実行してからアンインストール手順を再実行しま

Windows にインストールした **Klocwork** を修復するには:

1. スタートメニューから、コントロールパネル > プログラムの追加と削除 をクリックします。

[プログラムの追加と削除] ダイアログが表示されます。

2. 修復する **Klocwork**

パッケージを選し、サポート情報を参照するには、ここをクリックしてください。を選します。

選した **Klocwork** パッケージの サポート情報 ダイアログが表示されます。

3. 修復 をクリックします。

インストールがクリーン状態にります。

関連項目:

- **Klocwork Insight** のアンインストール
 - **Klocwork Insight** のインストール
 - **トラブルシューティング**
-

パッチをインストールした後で Visual Studio でパッケージロードエラーが発生する

<yambe:breadcrumb>Visual

Studio

のトラブルシューティング</yambe:breadcrumb>以下のいずれかを実行できます。

- パッチをアンインストールして最新のフルバージョンの Klocwork ユーザーインストーラをインストールするか、
- <user_install>\inforceVSNET ディレクトリから次のコマンドを実行します。

```
regsvr32 IfPkgVS2005.dll
```

インストール中のセットアップ初期化ファイルの読み込み

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>

Windows

でのインストール時に次のエラーが表示された場合は、次の手順に従います。

設定初期化ファイルの読み込み中にエラーが発生しました

Windows システムドライブ (通常は C: ドライブ) に空き領域があることを確認します。Windows

インストーラは、Klocwork

を別のドライブにインストールする場合でも、システムドライブ上の領域を必要とします。

Klocwork は非ASCII エンコードをサポートしている

<yambe:breadcrumb>リファレンス</yambe:breadcrumb>Klocwork

Insight

8.1

以降では完全に国際化しています。つまり、以下のドキュメントで日本語などのマルチバイト文字を使用できます。

- ソースファイルの内容 (C/C++ では、コメントと文字列のみにマルチバイト文字を使用できることに注意してください)
- ソースファイル名とパス (国際化に関する制限を参照)
- テーブルディレクトリのパス
- 出された指摘のコメント
- カスタムチェッカーヘルプファイル (指摘コードにはマルチバイト文字を使用できません)
- 構成ファイル
- ユーザーの認証管理 (たとえば、LDAP 設定アクセス制御)
- !Checker Studio

ファイルシステムパスで使用される文字は、現在のエンコードで記述する必要があります。たとえば、ソースファイルの場合、これは、unicode

以外のプログラムの言語を日本語に設定する必要があることを意味します。このプロパティを 更するには、[コントロール] > [地域と言語のオプション] > [詳細] から [日本語] を選 して、コンピューターを再起動します。

関連項目:

- 国際化に関する制限
- kwconv

Windows のインストール後に Klocwork サーバーを起動できない

<yambe:breadcrumb>サーバーとデータベースの管理</yambe:breadcrumb> Windows への Klocwork
サーバー パッケージのインストール後に次のいずれかのメッセージが表示される場合:

- Error 1920. Service Klocwork 9.6 Server (Klocwork 9.6 Server) failed to start. Verify that you have sufficient privileges to start system services.
- Service Klocwork 9.6 License Server failed to start. See installation log for more details.

以前のバージョンの Klocwork サーバーや Klocwork ライセンスサーバーが Insight 9.6
のインストール時に指定したポートで実行されていることが考えられます。同じポートで
2
つのバージョンのサーバーを実行することはできません。

kwservice set-service-property を使用して 9.6 Klocwork Server and/or 9.6 Klocwork
ライセンスサーバー用の異なるポート番号を設定してからサーバーを起動する必要があります。

関連項目

- Klocwork Insight のインストール

Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA をお使いになる前に

<yambe:breadcrumb>Klocwork Desktop Analysis
を使用したチェックイン前の指摘の修正</yambe:breadcrumb>Klocwork plug-in for IntelliJ
IDEAチェックイン前に指摘を出して修正するのに役立ちます。
ユーザーパッケージの一部としてインストールされます。

プロジェクトへの Klocwork サーバーの接続

静的コード解析から最大の益を得られるのは、小さいローカルプロジェクトを Klocwork
サーバー上の大きいプロジェクトに接続するときです。


小さいローカルプロジェクトは、追加のソースファイル (共有ライブラリなど)
が解析されたサーバー上に生成された Insight knowledge base (ナレッジベース)
を組み込んでいる間に、即座に解析されます。

サーバープロジェクトに接続すると、指摘ステータス情報を統合ビルド解析およびチームメンバー間で共有することも
スタンドアロンデスクトップ解析を実行できますが、この解析では知識をローカルプロジェクトのソースファイルから
この手順は、各プロジェクトで 1 回だけ実行します。

1. IntelliJ IDEA で、[ファイル]>[設定] の順にクリックします。
2. [プロジェクト設定] で [Klocwork for Java] をダブルクリックします。
3. [Klocwork プロジェクト] で、接続する Klocwork サーバープロジェクトを選択します。
4. Klocwork サーバーへのセキュア接続が設定されている場合は、[セキュア接続の使用]
チェックボックスをオンにします。
5. [OK] をクリックします。

コードの解析

1. IDEA で、解析するプロジェクトを開きます。
2. ツールバーにある  をクリックします。

ヒント: ツールバーにある [解析] ボタン  をクリックすると、[Klocwork for Java Project Settings] ページで選 じたモジュールが常に解析されます。これとは 照的に、[Run Klocwork for Java analysis]

メニューオプションを右クリックすると、プロジェクトエクスプローラーで現在選 されているモジュールが解析 ([プロジェクト設定] ページで選 されているかどうかは無関係です)。

解析が完了したら、[Klocwork for Java] ビューに解析結果が表示されます。


出された指摘の調

[Klocwork for Java] ビューで、次を行います。

1. リストにある指摘をクリックして、指摘内容が現れるソースコードを表示します。
2. トレースバック情報を使用して、指摘を調 します。トレースバック行からは、指摘の一因となったイベントにリンク
3. 指摘に関するヘルプを確認するには、指摘を右クリックし [ヘルプを表示] を選 します。

欠陥を修正し、残りは無視します。

本物の欠陥の場合:

1. コードで指摘を修正し、更を保存します。
2.  をクリックして、解析を実行します。

指摘がリストに表示されなくなれば、その指摘は修正 みです。

修正する必要のない指摘の場合:

1. リストで指摘を右クリックし、**Change Status > Ignore** を選 します。
2. コメントを入力して **OK** をクリックします。

Klocwork サーバー上のプロジェクトに接続している場合、更内容は他のデベロッパーと Klocwork Review

その他のデベロッパーによる 更でもデスクトッププロジェクトが更新されるようになりました。

この状況は、別の統合ビルド解析が実行される前でも発生します。

チェックインの前に

- IDE からのチェックイン前のコードレビューの設定

アンインストール

Klocwork Insight のアンインストール

<yambe:breadcrumb>Installing_Klocwork_Insight</yambe:breadcrumb>

アンインストールの前に

サーバーパッケージまたは `connected` `desktop` (コネクテッドデスクトップ) のインストールを、更またはアンインストールする場合、最初に `Klocwork` サーバーを停止する必要があります。Klocwork サーバーの停止を参照してください。

サーバーパッケージをアンインストールする場合、サーバーの停止に加え、`projects_root` ディレクトリや、更した `kwfilter.conf` などの構成ファイルのバックアップコピーを作成する必要があります。Unix および Windows の場合、コンパイラ構成ファイルは `<server_install>/config` にあります。Mac の場合は、`/Library/Frameworks/KlocworkServer.framework/<version>/config` にあります。バックアップデータの作成方法の詳細については、Klocwork データのバックアップを参照してください。

Windows バージョンの Klocwork サーバーパッケージは、`projects_root` ディレクトリまたは構成ファイルをアンインストールしないため、特に `7.7` より前のバージョンをアンインストールする場合は、念のためこれらのディレクトリのバックアップを作成すると役立つシステムの場合は、自動アンインストールがないため、`projects_root` および保存の必要のあるその他のデータファイルのバックアップを、サーバーのインストールディレクトリ以外に必ず作成してください。Windows にインストールした Klocwork Insight の修復も参照してください。

Windows でのアンインストール

注意:ユーザーパッケージをアンインストールすると、Visual Studio および IntelliJ IDEA 用のプラグインがアンインストールされます。Eclipse からプラグインを削除するには、更新サイトをアンインストールする必要があります。

Windows におけるインストール みのコンポーネントの表示またはインストールの 更

サーバーパッケージまたはユーザーパッケージから `1` つ以上の `Klocwork` コンポーネントを削除する場合、また、現在インストールされているコンポーネントを確認する必要がある場合は、次の `Klocwork`

をアンインストールする必要がある場合、アンインストールの前に現在インストールされているコンポーネントを確認し、インストールされているコンポーネントを表示、または Klocwork を部分的にアンインストールするには:

1. [スタート]メニューから、[コントロールパネル]>[プログラムの追加と削除]に移動します。

Windows 7:[コントロールパネル] ウィンドウから、[プログラム] の下の [プログラムのアンインストール] を選 びます。

2. 情報を表示するサーバーパッケージまたはユーザーパッケージまでスクロールしてクリックします。
3. パッチに関する情報を見つけるために、[プログラムの追加と削除] の上部にある [更新プログラムの表示] チェックボックスが選 ばれていることを確認します。

Windows 7: 右上の [インストールされた更新プログラムを表示] をクリックします。

Klocwork

インストールパッケージエントリの下に、インストールされているパッチが表示されます。

4. [更] をクリックします。

Windows 7: Klocwork インストールパッケージを右クリックして [更] を選 します。

更ウィザードの [ようこそ] 画面が表示されます。

5. [次へ] をクリックします。

[プログラムのメンテナンス] パネルが表示されます。

6. [更] を選 して [次へ] をクリックします。

7. [カスタムセットアップ]

画面が表示されます。クリックスルーし、インストールされているコンポーネント (機能) を確認します。

注意: 次の記号は、インストールされているコンポーネントを示します: ■

8. インストールされているコンポーネントのみを表示する場合:

9. インストール みのコンポーネントを記 します。

10. [キャンセル] をクリックします。

11. 確認を求められたら、[はい] をクリックします。

12. [終了] をクリックします。

13. 特定のコンポーネントをアンインストールする場合、または以前にインストールしなかったコンポーネントをイン

14. アンインストールするコンポーネントについては、[インストールしない] をクリックします。

インストールするコンポーネントについては、[ローカルハードドライブにすべてインストール] をクリックします。

15. [次へ] をクリックします。

[プログラムの修正準備の完了] 画面が表示されます。

16. [インストール] をクリックします。

選 した機能が 更 されます。

17. [終了] をクリックします。

Windows マシンからの Klocwork のアンインストール

注意: [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] から **Klocwork** をアンインストールできますが、ログ情報は取得できません。

Klocwork ソフトウェアパッケージを削除するには:

1. 次のコマンドを実行します。

```
<installer.exe> /X
```

ここで、<installer.exe> はアンインストールするパッケージです。

2. [設定言語の選] 画面が表示されます。

適切な言語を選 し、[OK] をクリックします。

3. プロンプトが表示されたら、[はい] をクリックして製品をアンインストールします。

アンインストールログファイルは %USERPROFILE%\Local Settings\Temp に保存されます。ログファイルの名前は、Klocwork<release-number>-<package>.log

となります。たとえば、Klocwork

9.6

サーバーパッケージのアンインストールログファイルの名前は、Klocwork9.6-Server.log です。

Windows での自動モードのアンインストール

Windows マシンで自動モードのアンインストールを実行するには、次のコマンドを入力します。

```
<installer.exe> /S /v"/qn REMOVE=ALL"
```

ここで、<installer.exe> はアンインストールするパッケージです。

アンインストールログファイルは %USERPROFILE%\Local Settings\Temp に保存されます。ログファイルの名前は、Klocwork<release-number>-<package>.log となります。たとえば、Klocwork 9.6 サーバーパッケージのアンインストールログファイルの名前は、Klocwork9.6-Server.log です。

Unix でのアンインストール

Unix マシンにインストールされているコンポーネントの表示

たとえば、新しいバージョンの Klocwork にアップグレードする場合、アンインストールの前に現在インストールされているコンポーネントを確認し、新しいバージョンのインストールされているコンポーネント (機能) を一覧表示するには、次のコマンドを実行します。

```
kwupdate [option ...]--list
```

オプションの全リストを確認するには、kwupdate を参照してください。

Unix マシンからのアンインストール

注意: ユーザーパッケージをアンインストールすると、IntelliJ IDEA 用のプラグインがアンインストールされます。Eclipse からプラグインを削除するには、更新サイトをアンインストールする必要があります。

Unix

でアンインストールするには、サーバーパッケージおよび/またはユーザーパッケージのインストールディレクトリを削

Mac でのアンインストール

注意: ユーザーパッケージをアンインストールすると、IntelliJ IDEA 用のプラグインがアンインストールされます。Eclipse からプラグインを削除するには、更新サイトをアンインストールする必要があります。

アンインストールするには、次のディレクトリを削除します。

```
/Applications/Klocwork Server 9.6
/Applications/Klocwork User 9.6
/Library/Frameworks/Klocwork*.framework
/usr/local/kw
```

Eclipse および IntelliJ IDEA からのプラグインのアンインストール

Eclipse

の場合、ユーザーパッケージをアンインストールしてもプラグインはアンインストールされません。プラグインをアン

IntelliJ

IDEA

の場合、上記に 明したようにユーザーパッケージをアンインストールするか、このセクションに記載されているステッ

Eclipse

Eclipse から Klocwork プラグインをアンインストールするには:

Eclipse 3.4	Eclipse 3.5 および 3.6
<ol style="list-style-type: none"> 1. [ヘルプ] メニューから、[ヘルプ] > [ソフトウェアの更新] > [構成の管理] を選 びます。 2. [Product Configuration] ダイアログが表示されます。 3. ナビゲーションパネルのアイテムを展開し、Klocwork 機能を表示します。 4. Klocwork 機能を右クリックして [アンインストール] を選 び、[はい] をクリックしてこの機能を無効にすることを確認します。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ヘルプ] メニューから、[ヘルプ] > [Eclipse について] を選 びます。 2. [インストールの詳細] をクリックします。 3. リストから Klocwork プラグインを選 び、[アンインストール] をクリックします。

Eclipse を再起動するようにプロンプトが表示されたら、[はい] をクリックします。

Eclipse

が再起動すると、Klocwork

のボタンおよびメニューアイテムは表示されなくなります。上記の手順で

Klocwork

ユーザーパッケージをアンインストールしていない場合は、Klocwork

プロジェクトが保存場所に残ります。

IntelliJ IDEA

1. [ファイル] > [設定] に移動します。
2. [IDE 設定] で、[プラグイン] をクリックします。
3. [Klocwork for Java in IntelliJ IDEA] を右クリックし、[アンインストール] を選 びます。
4. IntelliJ IDEA を閉じます。
5. IntelliJ IDEA を再起動し、Klocwork のボタンが表示されていないことを確認して削除を確認します。

注意: アンインストール後、新しいバージョンの Insight をインストールする前に、IntelliJ IDEA を再起動する必要があります。

Windows のインストール後に Klocwork サーバーを起動できない

<yambe:breadcrumb>サーバーとデータベースの管理</yambe:breadcrumb> Windows への Klocwork
サーバー パッケージのインストール後に次のいずれかのメッセージが表示される場合:

- Error 1920. Service Klocwork 9.6 Server (Klocwork 9.6 Server) failed to start. Verify that you have sufficient privileges to start system services.
- Service Klocwork 9.6 License Server failed to start. See installation log for more details.

以前のバージョンの Klocwork サーバーや Klocwork ライセンスサーバーが Insight 9.6
のインストール時に指定したポートで実行されていることが考えられます。同じポートで
2
つのバージョンのサーバーを実行することはできません。

kwservice set-service-property を使用して 9.6 Klocwork Server and/or 9.6 Klocwork
ライセンスサーバー用の異なるポート番号を設定してからサーバーを起動する必要があります。

関連項目

- Klocwork Insight のインストール

記事の出典および著者

Klocwork パッケージとコンポーネントについて 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13518> 著者: Kwelsh

システム要件 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=15018> 著者: Kwelsh

前バージョンからのアップグレード 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=15007> 著者: Arettie, Kwelsh

Windows への **Klocwork** サーバー パッケージのインストール -- アップグレードのみ 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12132> 著者: Kwelsh

Unix への **Klocwork** サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14870> 著者: Kwelsh

Mac への **Klocwork** サーバーパッケージのインストール -- アップグレードのみ 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12124> 著者: Kwelsh

Klocwork Insight のインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13591> 著者: Kwelsh

Windows への **Klocwork** サーバー パッケージのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14296> 著者: Kwelsh

Windows への自動インストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14294> 著者: Kwelsh

Unix への **Klocwork** サーバーパッケージのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14300> 著者: Kwelsh

Mac への **Klocwork** サーバーパッケージのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14304> 著者: Kwelsh

kwupdate 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12738> 著者: Kwelsh

Windows への **Klocwork** ユーザーパッケージのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14298> 著者: Kwelsh

Unix への **Klocwork** ユーザーパッケージのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=15002> 著者: Kwelsh

Mac への **Klocwork** ユーザーパッケージのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12134> 著者: Kwelsh

Eclipse 更新サイトからの **Klocwork** プラグインのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14750> 著者: Kwelsh

新規またはアップグレード版 **IDE** 向けカスタムインストールの実行 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12144> 著者: Kwelsh

分散解析パッケージのインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12120> 著者: Kwelsh

Klocwork サーバー設定の表示と 更 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13016> 著者: Kwelsh

Klocwork サーバーの起動 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13641> 著者: Kwelsh

Klocwork サーバーの停止 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13004> 著者: Kwelsh

kwservice 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14692> 著者: Kwelsh

インストールのテスト 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=14730> 著者: Arettie, Kwelsh

チームに伝達しなければならないこと 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13482> 著者: Kwelsh

Windows にインストールした **Klocwork Insight** の修復 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13985> 著者: Kwelsh

パッチをインストールした後で **Visual Studio** でパッケージロードエラーが発生する 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12242> 著者: Kwelsh

インストール中のセットアップ初期化ファイルの読み取りエラー 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13082> 著者: Kwelsh

Klocwork は非ASCII エンコードをサポートしている 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12678> 著者: Kwelsh

Windows のインストール後に **Klocwork** サーバーを起動できない 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13126> 著者: Kwelsh

Klocwork Desktop Java Plug-in for IntelliJ IDEA をお使いになる前に 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12184> 著者: Kwelsh

Klocwork Insight のアンインストール 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=12152> 著者: Kwelsh

Windows のインストール後に **Klocwork** サーバーを起動できない 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?oldid=13126> 著者: Kwelsh

画像の出典およびライセンス、著者

File:klocwork-insight-config.png 出典: <http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?title=ファイル:Klocwork-insight-config.png> ライセンス: 不明 著者: -
File:Klocwork_check_icon.jpg 出典: http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?title=ファイル:Klocwork_check_icon.jpg ライセンス: 不明 著者: -
File:Klocwork check icon.jpg 出典: http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?title=ファイル:Klocwork_check_icon.jpg ライセンス: 不明 著者: -
File:Uninstall_this_feature_installed.jpg 出典: http://www.klocwork.com/products/documentation/dakota-ja/index.php?title=ファイル:Uninstall_this_feature_installed.jpg ライセンス: 不明 著者: -

ライセンス

Copyright © 1998-2012 Klocwork Inc.

All rights reserved

このドキュメントおよびドキュメントで明されているソフトウェアにはライセンスが与えられており、このライセンスの規約に従った場合にのみ使用またはコピーすることができます。ここに含まれる情報は、Klocwork Inc. の所有物かつ Klocwork Inc. とクライアント間の機密情報であり、Klocwork Inc. の独占的な利と見なされます。どのような形式または手段でも、電氣的、機械的、コピー印刷、画、またはその他の理由でも、Klocwork Inc. の事前の書面による許可なしでこのドキュメンテーションの一部をコピー、翻訳、素システムへの保存、または転送することはできません。

ドキュメンテーションに問題がある場合は、書面で報告してください。Klocwork Inc. は、このドキュメントでエラーが発生しないことを保証しません。

Klocwork および Klocwork Truepath は Klocwork Inc. の登録商標です。Klocwork Insight、Klocwork Inspect、および Klocwork Review は Klocwork Inc. の商標です。その他のすべての商標は、それぞれのオーナーに所有があります。Klocwork の MISRA チェッカーのすべてのヘルプコンテンツは、MISRA 企業体を代表して MIRA Ltd が著作権を所有しています。サードパーティ製ソフトウェアの Copyright 告知には、Klocwork インストールディレクトリにある 3rdparty_copyright_notices.txt ファイルが含まれています。

Klocwork Inc.

電話 (フリーダイヤル) (北米): 1-866-556-2967

電子メール: sales@klocwork.com または support@klocwork.com

Web サイト: <http://www.klocwork.com>

米国:

8 New England Executive Park, Suite 180 Burlington, Massachusetts 01803 USA

カナダ:

30 Edgewater Street, Suite 114 Ottawa, Ontario Canada K2L 1V8